

も く じ

1. 活動報告書

(延期された団体の番号が歯抜けになっています)

No.	対象分野	活動名	団体名	地域		金額 (万円)	ページ
2	国際交流・協力	「温故知新プロジェクト」：若い力で私達の街を国際学園都市へ発展させよう！	NPO法人 ワン・フォー・オール	山口県	宇部市	27	1
3	自然とのふれあい	芦田川きれい☆きれいプロジェクト 「芦田川 水辺の学び舎」	芦田川環境マネジメントセンター	広島県	福山市	16	3
5	科学体験・ものづくり	わくわく土曜講座	NPO法人 さとうみ振興会	広島県	広島市中区	42	5
6	科学体験・ものづくり	育てて！広がれ！未来の地球 ミニソーラーカー工作教室	宇部市地球温暖化対策ネットワーク	山口県	宇部市	24	7
9	青少年の居場所づくり	無料塾（中学生を中心にした学習支援）	無料塾寺子屋「夢」	広島県	呉市	19	9
11	青少年の居場所づくり	SKCアカデミー ～発達障がいを持つ児童生徒 対象サッカー教室展開事業～	一般社団法人 日本発達支援 サッカー協会	広島県	広島市中区	32	11
13	青少年の居場所づくり	臨床美術からのアプローチ ～発達障がいを持つ子ども達へ～	ひろしま美術研究所 アルセンス	広島県	広島市南区	26	13
14	青少年の居場所づくり	広島スポーツスピリット	NPO法人 広島スポーツスピリット	広島県	広島市南区	32	15
16	青少年の居場所づくり	里山の食・遊・学リレー活動	里山暮らしネット	広島県	三次市	24	17
18	青少年の居場所づくり	本と多様な価値観に出会う居場所づくり活動	私設図書館「さんさん舎」	広島県	尾道市	20	19
19	青少年の居場所づくり	子どもの居場所づくり	NPO法人 とりで	山口県	岩国市	30	21
20	地域連帯・コミュニティづくり	広島市少年消防クラブとの合同宿泊研修	府中町少年少女消防クラブ (B F C)	広島県	安芸郡坂町	18	23
21	地域連帯・コミュニティづくり	子どもから高齢者まで誰もが来られる地域の家	矢野の家	広島県	広島市安芸区	43	25
22	地域連帯・コミュニティづくり	地域を愛し、自分の命は自分が守る青少年を養成する、防災士による地域防災活動	一般社団法人 ひろしま防災減災支援協会	広島県	広島市安佐北区	18	27
23	地域連帯・コミュニティづくり	「庚午の町を将来 帰ってきたい町に！」プロジェクト わんわんパトロールで声を掛け合う町づくり	ブルーベリーくらぶ	広島県	広島市西区	19	29
24	地域連帯・コミュニティづくり	被曝75周年事業 I P R A Y 2020	NPO法人 I P R A Y	広島県	広島市中区	27	31
25	地域連帯・コミュニティづくり	やまゆり活動（第70回やまゆり訪問）	安芸太田町立上殿小学校	広島県	山県郡安芸太田町	12	33
26	地域連帯・コミュニティづくり	豊栄郷土カルタをつくろう	豊栄郷土カルタを作ろう会	広島県	東広島市	29	35
27	地域連帯・コミュニティづくり	居場所づくり	UMEプロジェクト (1メプロジェクト)	広島県	尾道市	19	37
28	地域連帯・コミュニティづくり	子どもたちの力でふるさと再発見 ～つたえよう、ひろめよう備後緋音頭～	備後緋音頭をつなぐ会	広島県	福山市	16	39
29	地域連帯・コミュニティづくり	iikotoメイト開設10周年事業	iikotoメイト (いいことめいと)	山口県	宇部市	43	41

2. 終了時交流会

i

3. 応募＆採択に関するデータ

ii

NO.2

活動概要

活動名：「**温故知新プロジェクト**」(3期目/集大成)

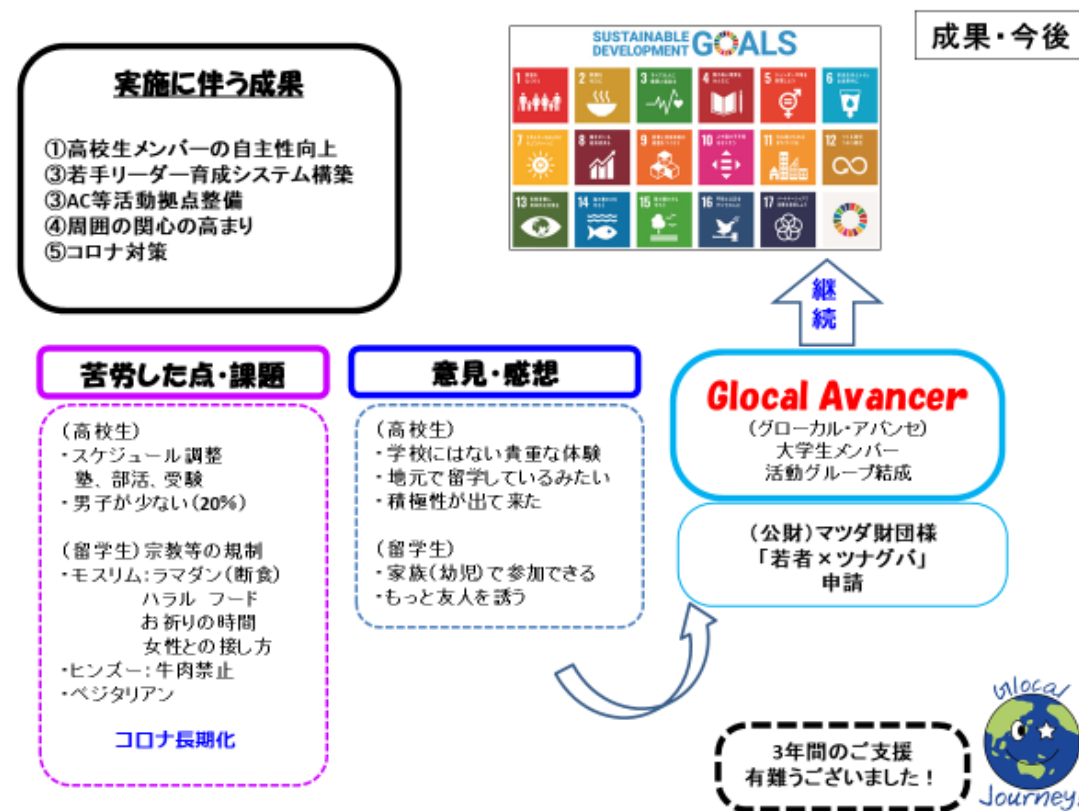
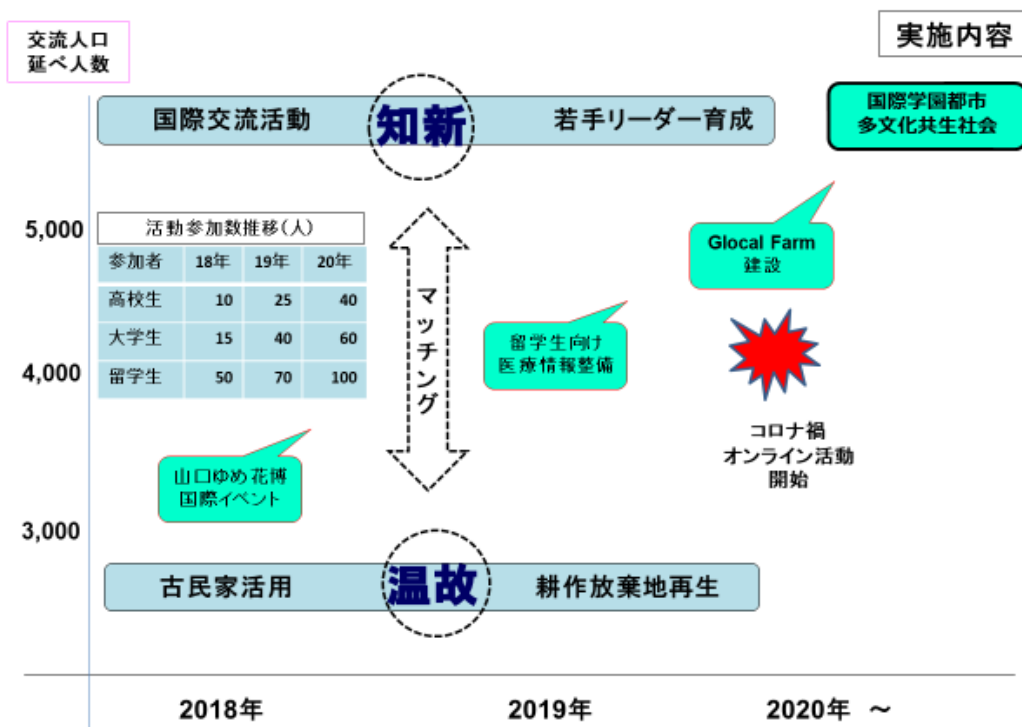
若い力で私達の街を国際学園都市に発展させよう！



(2018年～2020年)

活動写真





活 動 名	No.3	団 体 名	芦田川環境マネジメントセンター
芦田川きれい☆きれいプロジェクト 「芦田川 水辺の学び舎」		活動拠点	広島県福山市
		代 表 者	田中 宏行
		支援金額	16 万円
団体紹介	広島県東部に位置する芦田川流域は、瀬戸内式気候で小雨地域であるにもかかわらず水利用が多いことから、河川の水量は極めて少なく、さらに、人口や産業の集積に対して下水道整備が立ち遅れ、芦田川下流部では水質汚濁が進行しています。 これまで、下水道事業、河川事業、合併浄化槽の設置など関係機関・地域住民が一体となって水質改善に向けた取り組みが実施されており、平成 23 年には中国地方の一級河川の中で 38 年連続水質ワースト 1 から脱出しましたが、全国の一級河川の中では水質ワースト 10 前後で終始しています。下水道整備や合併浄化槽の設置などは、限られた予算の中で大幅な進捗が見込めないことから、芦田川の水環境を改善するためには、芦田川の水質汚濁の 7 割を占めるといわれる生活雑排水対策が効果的であり、流域住民の一人ひとりが、芦田川の水環境に対し問題意識を持つことが重要です。 このため、当団体は、芦田川の水環境改善に向けて、市民、事業者、環境活動団体、研究者、行政等が連携して活動するための任意団体として平成 16 年 10 月に設立しました。		
活動概要	(1)目 的 この活動は、川に入って遊ぶ機会が減っている子どもたちに、生き物調査を通じて、芦田川への興味や愛着を高め、水環境への関心をもってもらうことを目的としています。 (2)開催概要 ■ 実 施 日 ： 2020 年 9 月 27 日（日） ■ 参加人数 ： 50 名（一般参加者、スタッフ含む） (3)活動内容 芦田川の水量や水質などの河川環境の違う2地点において、小学生などの子供たちを対象に魚とり等の体験学習会の開催。（今年度はコロナウイルス感染症の影響により、一部内容を変更して実施） ①生き物調べ（水生生物調査、魚とり調査、水質調査、結果発表と講師による解説） 場所：[午前] 出口川河川敷(一般参加者とスタッフ)、芦田川上流の府中大渡橋付近(スタッフのみ) ②水辺の生き物マップ作成（調査結果をもとに事務局で整理しまとめたものを作成） ※生き物マップは後日、ホームページで公開		



【屋外テント設置】



【参加者への消毒・検温（受付時）】
コロナウイルス感染症防止対策として設置

調査範囲をロープで区切って分割



【現地調査（生き物調べ）の様子】

調査範囲をロープで区切って、家族単位や4～5人程度に分ける

【講師による解説】

芦田川に生息する生き物についての解説

◆実施に伴う効果

（体験学習会による効果）：参加者に川の多様な生物の存在に気づき、自然の大切さの理解を促すとともに、芦田川への親しみや愛着を高め、水質改善に向けた意識の醸成が期待されます。

（参加者からの意見）：参加者のみなさんから、“安全に川に入れて楽しむ事ができて良かったです”“名前を知らない生物の名前が分かった”“子どもに魚とりの楽しさを教えることができた”“来年もこのイベントがあれば、ぜひ来ようと思います”などの意見があり、「芦田川への興味や愛着を高め、水環境への関心をもってもらう」という活動目的は、達成できたと考えます。

◆苦労した点

- ・参加者への検温・消毒及びマスク持参などの対策を徹底するとともに、募集定員の縮小、開催時間の短縮（午前中のみ）し、川での体験学習では、調査範囲をロープで区切って分割し、家族単位や4～5人程度の少人数で体験できるように工夫しました。屋外に TENT を設置することで、換気の良い環境で短時間に行いました。
- ・安全面の配慮としては、時間の短縮に伴い、屋外で長時間活動するため、熱中症対策として、塩飴や給水のためのミネラルウォーターの準備や TENT の一部に休憩スペースも確保し対応し安全にイベントを開催できました。

◆今後の課題・発展の方向性

（今後の課題）：今年度はコロナウイルス感染症の影響により、募集人員や体験フィールドを縮小しての開催となりました。募集も開始から数日で満席になり、その後も多くの方の参加をお断せざるを得ない状況であり、今後の状況を考慮しながら、開催規模や開催方法を設定する必要があり、今後の課題と考えております。

（発展の方向性）：今回、新たな開催方法を試行でき、一定の効果も確認できましたので、今回の方法をもとに、次回以降の開催方法を検討していく必要があると考えます。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・コロナウイルス感染症の影響によりイベント自体が自粛傾向にある状況でしたが、毎年多くの参加者がある人気のイベントであり、生き物とのふれあいを通じて川への関心や興味を高め、川の自然の大切さを伝える有効な手段として定着していることから継続していくことが重要と考え開催しました。
- ・開催当日まで安全に行えるか不安でしたが、スタッフやボランティアの方々の協力もあり、感染防止対策を講じながら無事に終わることが出来ました。参加者が笑顔で楽しんでいる様子に、開催して良かったと実感しました。
- ・新型コロナ禍により各種のイベントが中止され、子どもたちの自然と触れ合える機会は大変減少しています。そういった社会的な背景も踏まえて、可能な範囲でも、この活動を実施することは、非常に重要な取り組みと考えており、今後も継続していきたいと考えております。

活 動 名	No. 5		団 体 名	NPO 法人さとうみ振興会			
わくわく土曜講座			活動拠点	広島市中区			
			代 表 者	田坂 勝			
			支援金額	42 万円			
団体紹介							
1、結成時期：2004 年 2 月 NPO 法人瀬戸内里海振興会として設立 2015 年 10 月 NPO 法人さとうみ振興会と名称変更（瀬戸内法改正に伴い）							
2、構成メンバー：個人正・賛助会員 24 名、法人正会員 7 団体、ボランティア会員 20 名							
3、結成の目的：ふるさとの海、里海の保全・再生・創造・活用及び地域の街づくり推進に関する事業の実施							
4、活動方針等：山・川・海の保全、再生、創造、活用に関する調査、情報の普及、まちづくり、自然体験、 環境教育の振興、イベント、シンポジウム、講演会、見学会などの事業							
活動概要							
(1) 自然科学系							
実施日	場所	内容	講師	アルバイト	大人	児童	計
6.06	会議室	オリエンテーションと缶バッジづくり	1	2	2	7	12
6.13	相生橋・会議室	水生生物観察、本川を探検しよう	3	2	2	8	15
7.04	会議室	リサイクルキャンドルを作ってみよう	1	2	2	8	13
8.08	会議室	星座盤を作ってみよう	1	2	2	7	12
9.12	青少年センター	草木染、玉ねぎ染めにチャレンジ	1	2	5	8	16
10.10	会議室	牛乳パック工作（3リサイクル）	1	2	4	9	16
12.12	青少年センター	クリスマスリースを作ろう	2	2	5	9	18
3.13	青少年センター	チャレンジエコクッキング	1	2	5	8	16
会議室使用 5 回 青少年センター使用 3 回		計	11	16	27	64	118
(2) IT 系							
実施日	場所	内容	講師	アルバイト	大人	児童	計
6.20	会議室	プログラムって？技術士て何だろう？	2		2	8	12
7.11	〃	SCRATCH を触れよう	2	1	2	8	13
7.25	〃	カートを動かそう	2	1	1	7	11
8.01	〃	音を楽しもう	3	1	2	7	13
8.15	〃	mBot を作ろう	3	1	1	7	12
9.19	〃	mBot を動かそう	3	2	1	8	14
10.17	〃	mBot の自動運転をしよう	3	1		6	10
12.19	〃	mBot の自動運転をしよう（2）	3	1			
3.20	〃	ドローンを飛ばそう（1）	3	1	1	6	11
会議室使用 9 回		計	24	9	11	62	106
自然系並びに IT 系の参加者合計数			講師	アルバイト	大人	児童	計
(1) 自然系参加者			11	16	27	64	118
(2) IT 系参加者			24	9	11	62	106
合計			35	25	38	106	224



06.06 自然科学系 缶バッチづくり



07.04 リサイクルキャンドルを作ってみよう

mBlockとmBotをつなごう

mBotのUSBケーブル接続端子にケーブルを接続します。
そのあと、パソコンに接続します。



5

10.17 IT系(mBotの自動運転をしよう(1回目))



12.19 IT系(mBotの自動運転をしよう(2回目))

◆実施に伴う効果(1)(2)共通

近隣住民に対して開催チラシの新聞折込み並びに他団体への持参など一般公募を行った。

- 1、これにより広島市内の11校区からの児童参加があった(多様)
- 2、殆どの児童が初めての体験をしたこと(学びの都度、必要に応じて振り返りアンケートを実施)
- 3、学びを通じて低学年と高学年の交流があったこと
- 4、保護者の参加があったこと(児童のふりかえりシートの持ち帰りにより保護者が関心を持たれたこと)

◆苦労した点(1)(2)共通

- 1、会場の設置：コロナ禍に伴い、3密にならない様に人数制限をして取り組む必要が生じた
公的な施設の使用制限に伴う科目変更、日程変更並びに会議室提供者が入院により調整が必要となった
- 2、保護者連絡：不在電話が多く、4月からラインでコロナ対策情報並びに開催日程を変更する必要が生じた
(近隣罹災患者情報入手・講師近隣罹災患者情報・休校状況等・保護者のヒヤリング等)
- 3、講師配置：コロナ禍により、自然科学系については、4科目の未実施、IT系についてはドローンの3回が1回に、好きなゲームを作ろうの2回が未実施、会場提供者並びに行政の自粛期間通知などにより、マツダ財団への継続助成申請の機会が失われた。(継続の有無については3月の実施際に保護者ヒヤリング予定)

◆今後の課題・発展の方向性(1)(2)共通

教材費負担が安価であれば参加者は増加可能、その場合、制約の少ない学ぶ「場所」の確保が不可欠
青年層の講師後継者(ボランティア)の育成と活動PRが必要(ブログ掲載自然科学系7回、IT系8回)

◆学びから見た事柄(1)(2)共通

学んだことを持ち帰り家庭内で実践、学級差による児童の理解度の差がありIT系については見守りが必要

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団の助成、各講師の尽力に感謝

活 動 名	No. 6	団 体 名	宇部市地球温暖化対策ネットワーク
育って！拡がれ！未来の地球 ミニソーラーカー工作教室		活動拠点	山口県宇部市
		代 表 者	溝田 忠人
		支援金額	24万円
団体紹介	結成時期：2002年10月（略称 UNCCA） 構成メンバー：代表1人、副代表1人、幹事9人、パートナー4人、監査2人、顧問1人、事務局5人 団体会員105団体 個人会員79人 結成の目的：省エネルギー及び低炭素社会の形成を目指し温室効果ガス削減に向け、産・官・学・民の相互理解と協力のもと、地域における地球温暖化対策を協議、実践し、環境共生都市の実現に寄与する。宇部市に於ける、地球温暖化対策地域協議会としての役割を担う。 目的達成のため、下記の事項を協議・検討・実施する。 （１）温室効果ガス削減のための生活行動様式改善の促進 （２）温室効果ガス削減に関する普及啓発の促進 （３）温室効果ガス削減に向けた仕組みづくり （４）その他地球温暖化対策に関すること		
活動概要	1. 夏休みミニソーラーカー工作教室 実施日：8月2日(日) 場所：宇部市多世代ふれあいセンター 第3講座室 内容：小学3年生以上を対象に午前・午後各2回教室を開催 ウィルス感染対策を実施し、手製キットによるミニソーラーカー工作 参加人数：38人 2. 琴芝小学校放課後子ども教室ミニソーラーカー工作教育 実施日：10月7日(水)、10月21日(水) 場所：琴芝小学校 図工教室 内容：太陽光発電の話とミニソーラーカー工作 参加人数：17人 3. 「まるごと COOL CHOICE in Library」ミニソーラーカー工作教育 実施日：12月20日(日) 場所：宇部市立図書館 会議室 内容：来館した幼稚園児・小学生対象にミニソーラーカー工作とパネル展示による省エネの啓発 参加人数：24人		

チラシ

マツダ財団市民活動支援による
夏休み
ミニソーラーカー工作教室
無料! (工作物持ち帰り)

◆開催：8月2日(日)
—第1回—10:00—10:40—定員満了
—第2回—11:00—11:40—定員満了
第3回 13:00—13:40 (残り3名)
第4回 14:00—14:40 (残り6名)
—第5回—15:00—15:40—中止

◆場所：多世代ふれあいセンター（3階）第3講座室
◆対象：小学生 3～6年生 各12人(合計60人)
◆内容：①ミニソーラーカーの工作
②自作ソーラーカーで太陽光エネルギーを体験

講師：溝田忠人先生 山口大学名誉教授・UNCCA代表
◆注意事項：①参加者はマスク着用と保護者の見守り不可
◆申し込み：7月1日(水)～7月31日(金)
但し、定員になった時点で締切

◆連絡先：宇部市地球温暖化対策ネットワーク
〒755-0032 宇部市南町2丁目11-28
TEL/FAX : 0836-38-8183
Eメール : unccainfo@ybb.ne.jp

◆主催：宇部市地球温暖化対策ネットワーク (UNCCA)
◆後援：宇部市、宇部市教育委員会
(株)宇部日報社、(株)エフエムくらら

完成車



8月2日(日)夏休み工作教室:コロナ感染対策をして実施



10月7日(水)琴芝小学校放課後子ども教室:
工作の前に太陽光発電の勉強



12月20日「まるごとCOOL CHOICE in Library」:
机の間隔を広く開けて。試走はみんなの目がきらきら輝く



7月6日(月)工作キット製作:少人数で120セット作る

◆実施に伴う効果

○今年は、自製テストコースで工作後試走した。自分の作ったソーラーカーがテストコースで照明を受けて走る時、子ども達みんな、マスクの奥で目を輝かせていた。光のエネルギーを自身で体感し、工作の面白さを体験した。

○「琴芝小学校放課後子ども教室」では、子ども教室のボランティア指導員も子どもと一緒に、太陽光エネルギーについて学び、科学工作の面白さを認識した。

○「まるごとCOOL CHOICE in Library工作教室」は、「クールチョイス」等パネル展示により、地球温暖化防止や省エネ活動の啓発となった。

◇苦労した点

○新型コロナウイルス対策により、予定したイベントが中止となり、代替案を企画し実施した。教室の回数を増やして(4→7回)参加人数(120人)の確保を目指したが、参加者は79人と目標を下回った。(達成率66%)

- ・「夏休み工作教室」:「子どもまつり」の代替えとして回数を増やし(1→4回)募集人数を増やしたが、夏休み日数の減少、コロナ対策で外出の自粛などによって、参加者は38人であった。(達成率63%)
- ・「琴芝小学校放課後子ども教室」:毎秋、計画しているイベントへの参加がコロナ対策で不可となり、代替えとして企画。残念ながら教室の児童数が少ないため(17人)、参加人数の増加に繋がらなかった。(達成率57%)
- ・「まるごとCOOL CHOICE in Library」:計画通り開催できたが、開催日が年末となり、コロナ対策の外出自粛なども重なって来館者が少なく、参加者は24人であった。(達成率80%)

○工作教室終了後、スタッフ、指導員による反省会は、コロナウイルス第3波拡大のため中止した。

◆今後の課題・発展の方向性

・昨秋、2050年温室効果ガス排出量「実質0」が政策発表され、今後、自然エネルギーへの需要増大が期待される。このような状況の中で助成を受けながら太陽光発電の啓発を続けている私たちのこの活動は、小さいけれど大きな意味を持つものと考えています。今後、参加者をもっと増やし、活動を発展・充実させる為には、安定した資金と人員が必要です。特に、人員について、現在自主的に活動に参加をいただいているサポーター(キット製作・工作指導を担当)の方の高齢化が進み、新人サポーターの参加が最重要課題となっています。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・今年度は新型コロナウイルスに振り回された1年でした。その中で小学校の放課後子ども教室での開催は、今後、活動の広がる芽ができ、大変良かったと思います。
- ・これまでソーラーカーキットを自作するという手間を繰り返し、子供たちに、魅力的で、安価で、工作能力に適し、限られた時間内に作ることでできるキットを提供できるようになった。今年も、作りやすさとデザイン、サーキットテストコースの提供などアイデアが生まれ、子供たちが自ら改良する意欲を引き出すキットになっている。

活 動 名	No. 9	団 体 名	無料塾寺子屋「夢」
無料塾（中学生を中心にした学習支援）		活動拠点	広島県呉市
		代 表 者	信谷 弘幸
		支援金額	19 万円
団体紹介	・2019 年 5 月 1 日ボランティア団体開設、同年 6 月から無料塾を開講。 ・ボランティア団体 無料塾寺子屋「夢」 呉市へ登録。講師は全員ボランティアで現在 10 名。老若男女があり、高校生、大学生、看護師、有料塾講師、大学教授、主婦など様々。 ・子どもの貧困や引きこもりが多いという報道に接し、有料塾に行けない、行きたくない子どもたちに高校進学への道筋を立て、将来の夢を叶えることが出来るように支援したいとの思いから、スタッフを募り、塾生を募集し開講しました。 ・成績アップを目指しますが、当塾生は私が願った①経済的に恵まれない子ども②学習機会や学習習慣が少ない子どもが多く集まっています。そのため、まずは子どもたちの居場所として位置づけ、その後成績アップで生きる自信とコミュニケーション力をつけさせたいとの方針です。		
活動概要	・経済的理由や学力低下で有料塾へ行けない子どもや引きこもりの子どもなどを対象としています。 ・主に中学生が多い無料塾ですが、通信制の高校生や小学生もいます。現在 13 名が登録しています。 ・毎月第 1・2・3 の日曜日に呉市広市民センター会議室を無料で借用し開講しています。 ・時間は午後 2 時から 4 時。 ・科目は数学・英語ですが、他の科目も随時対応しています。 ・これまで 2 月 23 日現在通算 47 回開講しました。今年度はコロナで 4 月と 5 月に会場が借用できず、6 月以降 25 回開催しました。 ・参加人数は塾生平均 9 名。スタッフ平均 8 名。 ・今年度は中学 3 年生が 3 名いますが、全員進学先がほぼ決定し、高校進学への夢を達成しました。		



塾風景です。コロナ対策で密を避けるように努めていますが、難しい状況です。



マンツーマンでの指導が信頼関係を作っています。



感染対策のため、検温の記入と消毒液を入口に用意しました。

◆実施に伴う効果

- ・子どもの出席率が上昇しました。居場所として定着しているのかと実感しています。
- ・不登校気味だった中学生が当塾をほとんど欠席せずに通って来て、少しずつ成績がアップすると同時に学校へ朝から通学できるようになりました。少しでも成績が上がることにより、勉強への意欲が生まれ、学校も自分にとっての居場所になったんだろうと思います。

◆苦勞した点

- ・コロナで3月から5月まで学校が休校となり、それに併せて会場の市民センター会議室が使用できず、やむを得ず閉校としました。新学期を挟んでいたため、進級した子どものフォローに苦心しました。
- ・スタッフがボランティアであり、謝金が払えないため、獲得に苦勞しました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・当塾を継続するためには、財政的な基盤が必要です。行政や各財団の皆さんの援助が必要です。
- ・行政と連携し同様な取り組みを行っている他団体との情報交換に努め、発展させたいと思います。
- ・今後は学習のみならず、就職につなげるような仕組みを考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・報告会で様々な団体のとりくみをお聞きしました。私どもと同様な取り組みをされている団体との連携が必要だと思いますので、貴財団で働きかけをお願いします。
- ・当塾を開講し継続していく中で、このような塾を必要としている子どもが隠れている、また、多く存在していることが分かりました。小さな単位で各地域に出来たらいいなと思っています。スタッフが3人いればできます。

活 動 名	No.11	団 体 名	一般社団法人 日本発達支援サッカー協会 (JDSFA)
SKC アカデミー～発達障がいを持つ児童生徒 対象サッカー教室展開事業～		活動拠点	広島市西区、安佐北区、東広島市
		代 表 者	杉岡 英明
		支援金額	32 万円
団体紹介	当協会は、“サッカーで障がいを個性に”を理念に 2015 年 12 月に設立して以来、発達障がいを持つ児童・生徒を対象に、サッカーを療育として取り入れた独自のプログラム「さっかありよういく®」を、民間児童サービスや公的施設、弊協会直営のサッカー教室である SKC アカデミーで展開している。		
活動概要	独自の療育方法である「さっかありよういく®」を提供するサッカー教室 SKC アカデミーを、約 30 名の子どもたちを対象に、広島市 2 か所、東広島市 1 か所で、それぞれ毎月 2 回開催している。 SKC アカデミーのサッカーチームであるブルージニアスが日頃の成果を発揮できる場を常に模索しているが、12 月には地元の女子サッカーチームであるアンジュヴィオレ広島が協力してくださり、フレンドリーマッチが実現した。 今年はコロナ禍で、いくつかの計画していた活動が実施できなかった。たとえば、発達障がいの特性上、SKC アカデミーは屋内開催が基本であるが、会場が使えなかったためやむを得ず屋外で開催した時もあったし、開催すらできない時期もあった。2019 年に発達障がいを持つ子どもたちのサッカーイベントとして初めて催したジニアスカップの第 2 回大会は中止せざるを得なかった。しかし、そんな時だったからこそ、将来に向かって前向きに考え、また実際に準備を開始できたことは良かったと思う。SKC アカデミーが開催できない時期には、ステイホームを強いられストレス限界の子どもたちを見て、サッカー指導の「デリバリー」を開始した。思いのほかニーズがあり、今後も希望者に対して続けていこうと思う。		



発達障がいの特性上クラスは少人数で行う



日頃の運動不足だけでなく筋力アップも目指す



コロナ禍で会場休館。やむを得ず屋外で開催したことも



コロナ禍でサッカー指導「デリバリー」開始！

◆実施に伴う効果

「さっかありよういく®」の特徴である「褒める」「認める」の結果として、成功体験が積み重なり、自己肯定感が強くなるということを目指す指導の下、子どもたちの久しぶりに見る満面の笑顔に、親も、忘れかけていた子育ての喜びを再認識し、「家に帰っても明るい会話が増えた」、「自信がついて難しいことにチャレンジするようになった」、といううれしい報告や、不登校だった子が春から特別支援学級へいくことが決まった、通信制高校への進学や、高校普通級進学など、前向きな報告が相次いでいる。全ての活動を通して、発達障がいへの理解を深めるとともに、一人でも多くの発達障がい児で悩んでおられる児童生徒、保護者の一助となれればと考えている。

◆苦労した点

何と言っても今年はコロナ禍の影響が大きかった。4月は予定していた開催場所がほぼすべて閉鎖となりSKCアカデミーが開催できず、在宅中の子どもたちのストレスも限界に近づいていた。先行きも不透明な状況であったため、何とか解決策を模索した結果、コーチが自宅近隣の公園などに出向いて「さっかありよういく®」を行う「デリバリー」サービスを開始した。

「さっかありよういく認定講座」も会場の確保が難しく、また3密を避ける必要性のため、オンライン開催を開始した。

◆今後の課題・発展の方向性

SKC アカデミーの長年の課題の一つは会場確保である。今年度は新規で中区の広島市施設を使用開始したが、ボールを使うという理由でどこからかクレームがあり使用できなくなった。それでも常に利用可能施設を探した結果、安芸郡府中町の公営体育館が使用できる可能性が高まり、2021 年 4 月から教室を 1 か所増設できる計画である。これには府中町教育委員会の甚大なるご協力があったが、場所確保については活動の意義を関係各処に理解していただくための活動も大切であることを学んだ。今後も、単に場所探しをするだけでなく、併せて啓発活動をしていこうと思う。

もう一つの課題は指導者育成である。世代交代を続けていくため、現在チーフコーチの育成にあたっているチーフディレクターをバトンタッチできるような人材を育成するため、継続学習の仕組みを整備することが必要であると感じている。

北は北海道、南は鹿児島まで、「さっかありよういく®」を行いたいという問い合わせがあるが、今年はコロナ禍でデモンストレーションも全く行えなかった。新型コロナの脅威が落ち着いたら積極的に展開したいと思う。

広島の新サッカースタジアムにセンサールーム設置が決まったが、そのアドバイスを従来から行っており、今後はルームの運営受託を目指して活動していきたい。

最後に、「さっかありよういく®」の需要が未就学児童にもあるのではないかとの思いから、2021 年度から SKC アカデミーkids を開設する計画。まずは 2 月と 3 月に無料体験会を開催して需要を探る予定。

◆活動を終えての感想・意見等

この 1 年間新型コロナウイルスの影響を受け、様々な対応を迫られた。ただそれはネガティブなものばかりではなく、オンライン講座開催やコーチのデリバリーなど新たな試みを実践する機会ともなった。マツダ財団様におかれましても、これまでになかったオンラインでの成果発表会やアンケート調査などの新たな試みで参加しやすい環境を作っていただき、そのご支援、ご尽力に感謝するとともに、今回得られた新たな人とのつながりも大切にしながら、今後の活動をさらに広げて継続していきたいと思う。

活 動 名	No.13	団 体 名	ひろしま美術研究所 アルセンス
臨床美術からのアプローチ ～発達障がいを持つ子ども達へ～		活動拠点	広島市南区
		代 表 者	大橋 啓一
		支援金額	26 万円
団体紹介	母体となるひろしま美術研究所は、広島では最初の本格的に美術を学ぶ場であり、これまで数多くの人たちがアトリエに集い、研究所としての経験を深めてまいりました。2004 年には新たに臨床美術を取り入れ、地域社会と美術をつなげる存在として幅広く取り組んでまいりました。2014 年、臨床美術を中心としたグループ名「アルセンス」を立ち上げ、役割を明確化し、より一層の社会貢献の充実を目指すことといたしました。 臨床美術という手法を使い、絵やオブジェなどの作品を楽しみながら制作する事によって脳を活性し、高齢者の認知症の予防や脳障害症状の改善、働く人のストレス緩和、子どもの感性教育などに効果の期待出来る芸術療法の実施。		
活動概要	子どもの情操教育、発達障がい者のケア、F E L O R モデルの実践として『臨床美術』を、発達障がい児へ定期的に実施しました。対象者は、「安芸ソーシャルサポートの会」小学生 10 名。スタッフ 3 名で実施。これまでの研究では、月に 2 回臨床美術を実施することが最も効果が高いと謳われていますが、予算やスタッフ、対象者の都合上、7 月～12 月全 5 回を実施しました。 臨床美術による芸術療法の効果は、心身の健康や忍耐力、やる気、自信、協調性といった「非認知的能力＝生きる力の基礎」を育むきっかけ作りを提供することを目的としています。障がい児自身も他者も肯定でき、クリエイティブな発想を身につけます。 【実施の流れ】		
セッション内容		具体的な内容・主な意義	
出迎え/挨拶		・受容されている事の確認	
導入 (イメージ喚起)		・リアリティーオリエンテーションや回想法など ・リラックスした雰囲気、コミュニケーションを楽しむ	
アートプログラム (脳を活性化)		・非日常空間の提供により、発想の転換（再発見）を喚起する ・五感を刺激する制作により、決断力、選択力を高める	
鑑賞会 (みんな違っていい、みんないい)		・上手、下手といった評価をしない ・その人らしい感性から生まれた作品の、制作工程や良いところ認め、具体的に褒める ・その場の人たちと、個々の作品の良さを共有する	
挨拶/見送り		・握手して送り出す→次回への制作意欲へと結びつく	



制作に使用する落ち葉や小枝を選んでいきます。



『ぶどうを描く』制作風景



鑑賞会の風景



『落ち葉と銅箔のレリーフ』参加者の作品

◆実施に伴う効果

助成申請時は、1年を通じて実施を希望しましたが、全5回とコロナの影響もあり回数が少なくなりました。

1時間半の時間を座っていることが出来ず立席している参加者や不安感から保護者から離れられない参加者などおりましたが、制作に入ると集中する時間も見られ回数を重ねる毎に立席も減りました。

鑑賞会で一人ずつ作品を見て話しをするのですが、自分の作品にだけでなく他の参加者の作品にも興味を持ち拍手する姿がみられるようになりました。

もう少しでも長い期間参加者と関わり、見守りたかったです。

◆苦労した点

感染予防の為、個々の作業スペースを離し、全員前を向いて座ってもらったが、できれば何人かのグループで他の参加者の制作過程を見たり、感じた事を共有したりしてもらいたかった。自分だけでなく他者の感じ方や新しい発見を見つけて欲しいが、スタッフから提案する形で補った。

◆今後の課題・発展の方向性

「安芸ソーシャルサポートの会」のスタッフの方から「保護者との関係性で子どもは変わる。保護者の方にも実施をしてほしい。」とご意見を頂き、ストレスの緩和だけでなく共通の制作を通じて、お互いの新たな一面を知り認め合う機会を作りたいと考えております。

また、継続していく為の方法を模索していきたいです。

◆活動を終えての感想・意見等

新型コロナウイルスの存在で、人との関わり方や接する時間の大切さを改めて感じる機会となりました。

貴重な時間を共有する中で、子ども達のモチーフや初めての技法に目を輝かせている姿、集中して取り組む姿、達成感のある顔などたくさんの表情を見ることが出来ました。

マツダ財団からのご支援があり、たくさんのご縁をいただきましたことに感謝をしております。

活 動 名	No.14	団 体 名	NPO 法人 広島スポーツスピリット
広島スポーツスピリット		活動拠点	広島市南区
		代 表 者	(代理)副理事長 高畑 好秀
		支援金額	32 万円
団体紹介	平成 1 8 年 6 月に結成。結成メンバーは元理事長の濱部修と副理事長の高畑好秀。結成目的は元アスリートとメンタルトレーナー高畑が児童養護施設や子どもデイサービス、子ども食堂などを訪問して子ども達とスポーツを楽しむ、同時にメンタル講習会を行うもの。		
活動概要	①安佐北区の野球チーム。長谷川昌幸(元広島カープ)20名で野球 ②安佐南区の子どもデイサービス。渡邊高博(バルセロナ五輪陸上代表)15名で陸上。 ③吉島公民館にて。三井浩二(元埼玉西武ライオンズ)不登校やいじめの問題を考える講演。 ④廿日市の子どもデイサービス。桑原裕義(元サンフレッチェ広島)20名でサッカー。 ⑤呉のサッカーチーム。吉田康弘(元サンフレッチェ広島)30名でサッカー。 ⑥廿日市のフリースクール。リングビー協会の方を招き、10名でニュースポーツのリングビー。 ⑦安佐南区の子どもデイサービス。植松優友(元千葉ロッテマリーンズ)15名で野球。 ⑧安佐南区の子どもデイサービス。長谷川昌幸(元広島カープ)10名で野球。 ⑨尾道の児童養護施設。藤田豊(元鹿島アントラーズ)30名でサッカー。 ⑩廿日市の子どもデイサービス。森跳二(元広島カープ)15名で野球。 ⑪土橋の子ども食堂。大塚貴之(デフラグビー日本代表)障害と向き合って前向きに生きるという内容の講演。 ⑫呉の児童養護施設。森跳二(元広島カープ)39名で野球。 ⑬佐伯区の児童養護施設。三井浩二(元埼玉西武ライオンズ)20名で野球。		



命についての話を真剣に聞く子供たち。



青空の下、選手と子供たちが対戦！



体当たりでラグビーのスクラム練習。



夢を語る選手の話に聞き入る子供たち。

◆実施に伴う効果

アンケートも何回か実施をしてみたが、子ども達がスポーツを通してとても楽しい時間を過ごせたり、元選手やメンタルトレーナー高畑の話などで未来について考えるきっかけになったようだ。

◆苦労した点

施設には様々な子ども達がいて、個々の子ども達の身体的、精神的状況に応じて対応していかなくてはならなかったということ

◆今後の課題・発展の方向性

コロナにより施設の訪問が難しくなり、普通の中学や高校への訪問に切り替えることになったが、コロナが落ち着いたら改めて施設などにも訪問をしたいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団からのご支援もあり、無事に有意義な時間を子ども達と共に過ごすことができた。束の間の時間ではあったが、子ども達の心の中に何かが残ри、それが今後生きていく上での力に僅かでも役立ってくれることを心から願っている。

活 動 名	No.16	団 体 名	里山暮らしネット
里山の食・遊・学リレー活動		活動拠点	広島県三次市
		代 表 者	塚川 直美
		支援金額	24 万円

団体紹介

県北の過疎少子化のなかで、高齢者のもっている暮らしの生活文化と知恵を、次世代（保護者・子どもたち）にリレーすることを目的に2020年1月結成。構成メンバーは高齢者2名・保護者と小中学生25名・20代2名の団体です。

活動概要

■ 川と暮らしの食イベントー食の匠高田至子さんを追悼する集いー馬洗川に集合！

- 日 時 : 2020 年 8 月 9 日 (日) 午前 8 時 30 分～12 時 30 分 ■ 場所 : 八次親水公園
 ■ 協力団体 : 江の川漁協・江の川エコネット・創志塾・島田真清書道教室 ■ 参加者 104 名 会員 24 名



朝 4 時から 100 人分のむすび



まずはブラシで石みがき



川で泳ぐのはみんな初めて



掴んだアユは串刺し・塩焼き（炭火）



アユの塩焼きとお握りの昼食・大満足

■ 里山の食・遊び体験 ■ 場所 : 三次市八次児童館

- 日時 : 2020 年 10 月 4 日 (日) 午前 8 時 30 分～12 時 30 分 ■ 参加者 保護者・子ども 16 名



寒天をつかったフルーツゼリーづくり



おかめ・ひよつこの風づくり



いなり寿司・デザートで食事会

食体験は寒天をつかったおやつづくり、昔の遊びは、凧づくり・コマ回し等を準備。体育行事と重なって参加者が少なかったのが残念。けん玉は全員挑戦しました

■餅つき大会

- 日時 2020 年 12 月 7 日(日)午前 9 時～12 時 ■場所：酒河コミュニティセンター ■参加人数：97 名
■協力団体：酒河コミュニティセンター・酒河小学校 PTA・創志塾・島田真清書道教室



お餅を丸めるのも初めて



お餅・ぜんざい・サラダの 3 点セット
110 人分準備



みなさん早朝よりお餅つきご苦労でした



持ち帰り用の準備

三次市酒河地区の全面的な協力で実行委員会をつくったのですが、コロナ禍で急遽中止。材料を準備していたので、会員・ボランティアで早朝より餅をつき、ぜんざい・サラダをつくって配布。104 名の申込者のうち、97 名が受け取りにきました。

【実施に伴う効果】

- ・川イベント「馬洗川に集合」は子どもにかかわる行事がすべて中止される中で、検温・マスク・看護師の配置等の対策を行って実施。地域の他団体の保護者子どもたちに参加を呼びかけて実施。江の川漁協の協賛でアユ握り・串刺し・塩焼きのフルコースを堪能し、子ども・保護者ともストレス解消、大満足でした。
- ・「里山の食・遊び」体験は他行事が重なって参加者 16 名。「いなりずし」と「寒天をつかったおやつ」作りは幼児や小学校低学年の子どもたちが喜びました。「昔の遊び」は凧づくり・コマ回しの練習。・けん玉は全員が挑戦しました。

【苦労した点】

本会は里山の食や遊びを子どもたちにリレーすることを主眼にしていたのですが、いずれもコロナ弱者、諸計画を大幅に変更せざるを得ませんでした。特に餅つき大会は酒河コミセン・酒河小 P T A が協力団体となっただけに中止は残念無念。しかし、104 名の申込者のうち 97 名が保護者同伴で受け取りにきてくれました。今後地域の恒例行事として定着させようと話し合っています。他にも夏冬の休みには寺子屋式の学びの場を計画していたのですが、コロナに対する危惧で保護者の理解が得られず中止しました。

【今後の課題・発展の方向性】

過疎少子化の県北では「子どもは宝」。高齢者と子どもを結び、里山の豊かな自然と暮らしのリレーは必須の課題です。また、行き場のない子どもたちが、里山暮らしネットの活動を通して、繋がっていく場になりたいと思っています。今後は地域コミセン・小学校 P T A 等の団体との連携を密にして、年間行事を実施したいと思います。特に山間地の子どもたち、プールと海では泳いだことがあっても、川で泳ぐのは初めての子どものほとんどです。「川のまち三次」です。継続実施したいものです。

【活動を終えての感想・意見等】

紙面の都合で写真が添付できませんでしたが、2/6 会員対象の和食研修会・共催団体等の打合せ会等を行いました。夏・冬休みの寺子屋式勉強会はコロナ禍で出来ませんでした。来年度は里山の食・学び・遊びのリレーの場を、不登校等の子ども・保護者の「拠りどころ」となる活動を充実させたいと思っています。ありがとうございました。

活 動 名	No.18	団 体 名	私設図書館「さんさん舎」
本と多様な価値観に出会う 居場所づくり活動		活動拠点	広島県尾道市
		代 表 者	瀬戸 房子
		支援金額	20 万円
	団体紹介		
○2017年9月～2018年10月…「ろのまえ文庫」（前身団体）として活動 ○2018 年 8 月～2019 年 3 月…私設図書館「さんさん舎」準備期間 ○2019 年 4 月～現在…私設図書館「さんさん舎」オープン 2021 年 2 月現在、10 名ほどの「お当番さん」（農家、保育士、看護師、セラピスト、飲食自営業者など様々な職種のメンバーで運営している。			
自分の学びの場、人との出会いや集いの場、子どもたちと本を結ぶ場所。「本」をキーワードに、学校でも家でも会社でもない居場所、地域の縁側の空間を作りたい、と結成。 地域に小・中学生や子育て世代が集えるような場所が学校や公共施設、家以外には少ないことから、様々な価値観や世界観を知る本との出会いはもちろん、地域の人や普段なかなか出会うことができない専門家と出会い、生きていく術や様々な考え方に触れ、人生の選択肢を広げるきっかけの場となることを目的とする。また、それに準じた活動を行なう。			
活動概要			
子どもたち、大人、そして不登校児や悩みを抱える人たちの居場所としての図書館の無料開放をしています。また、本から知り得る世界で新たな発見、考え方などに触れることもできます。また、多種多様な考え方や働き方、生き方の人と出会うきっかけの場作り（イベント）をし、人生の選択肢や価値観を広げる活動を行なっています。			
◎図書館（居場所）開所（尾道市向東町 1012-23 私設図書館「さんさん舎」1 階） 2020.4 月～2021 年 2 月 10 日まで（約 10 ヶ月）利用者：大人 325 人、子ども 138 人 326 日のうち 192 日間オープン（1 日あたり 3～8 時間開放）＊4～6 月に関しては数日のみの開館。 ＊オープン日時は、ボランティアスタッフの都合により毎月毎日異なるため、店頭に掲示、毎月のカレンダー発行、LINE、Facebook ページにて行いました。			
◎イベント（尾道市向東町 1012-23 私設図書館「さんさん舎」1 階及び 2 階） 9/1 食欲の秋に読みたいマンガトーク(FacebookLIVE) 10/7 「リトルプレス」の面白さとその魅力（展示会及びトーク） 10/19 アンガーマネジメント体験講座 11/27 フードパントリー ～ぐるぐるマーケット秋の特別編～ 12/1～1/10 さんさん古本市 1/25 上手に怒る方法～アンガーマネジメント講座～(ゲストリモート) 1/12 高原さんが 2020 年に買った漫画全部読める月間 ～漫画談義（展示会及びトーク&FacebookLIVE） 1/31 フードパントリー ～ぐるぐるマーケット冬の特別編～ 2/27 食品ロス削減とフードパントリーについて(ゲスト及び参加者一部 zoom) 3/20（予定）「あなたはなぜ、今ここに 私と自転車、世界旅」(ゲスト及び参加者一部 zoom)			
◎「ゆるむ会」不登校や学校に行かない選択をした子と親の会（尾道市向島内の古民家） 庭付きの別会場を借りて 9 月より月 1 回程度開催。9/23,10/21,12/4,1/20,2/17,3/17（予定） ＊12/4 当事者ゲストを招いてのトーク（神林俊一さん） ＊3/17（予定）心理士さんを招いてのトーク（梶原慶さん）			
◎「学校無理でもここあるよ」キャンペーン及び、「街のとまり木」として「多様な学びプロジェクト」に参加登録 ◎尾道市子どもの居場所作りネットワーク 参加 ◎不登校児童生徒を支援している団体等と広島県教育委員会との情報共有会 参加			



ゆるむ会（さんさん舎にて）



ゆるむ会（向島内の古民家にて）



リトルプレスの面白さとその魅力展示（さんさん舎 2F にて） 上手に怒る方法＊ゲストリモート（さんさん舎 2F にて）

◆ 実施に伴う効果

- ・ FacebookやLINE、twitterなど様々なSNS媒体を通して常時発信し、場の知名度を高めたり、活動を知っていただくよう努力しました。また、県の教育委員会が主催する情報交換会や、尾道市の居場所づくりネットワーク会議などにも参加し行政関係各所との連携も積極的に行っています。
- ・ さんさん舎の趣旨に賛同するボランティアスタッフも増え、開館日数が多くなりました。
- ・ コロナ禍のなかでできることを模索し、少人数でもイベント開催、オンラインも実験的に取り入れました。今後は社会状況に応じて参加方法をどちらでも選択できるようさらに工夫し、間口を広めたい。
- ・ オープン時には図書館を「無料」で開放し、こども一人でも気軽に来られる場、本を読んだり宿題をしたり、大人もふらっと立ち寄れる場として、様々な交流が生まれています。
- ・ 全国的に活躍するような、普段の生活ではなかなか出会うことのないゲストにお越し頂き、あえて少人数制で交流しやすく話しやすい場をつくった。
- ・ 不登校児または学校に行かない選択をした子と親の居場所として、広い古民家（庭付き）を定期的にお借りし、話し合いや情報交換できる場、子どもたちがのびのびと過ごせる場を作っています。尾道だけではなく福山三原、しまなみ海道の島々からも参加者がおり、場の必要性を感じています。

◆ 苦労した点

- ・ 基本的に「できるときに無理ない範囲で」をスタンスとしているため、夕方や週末お当番の確保が難しい。
- ・ 周知のために告知（カレンダー作成や、メール配信など）をまめに行っているが、時間と手間がかかっている。
- ・ ボランティアスタッフのそれぞれの参加の気持ち、モチベーション、個々の個性を活かしながら場をよりよくするためにはどうしたらよいか、と常に模索している。
- ・ 通常図書館オープン時の参加人数はもとも多くはないが、コロナウイルスに関してのそれぞれ（スタッフ及び利用者、周辺住民など）の価値観が違うので、そのあたりの兼ね合いをどこで折り合いをつけるか、また、目に見えないウイルスにおびえ、目指すものごとと現実との間で悩み行動できない期間があった。特にイベント告知に関しては大々的にしていいいものかとの迷いがあり、控えめなものとなった。

◆ 今後の課題・発展の方向性

- ・ コロナ禍のなかでの休校期間後、不登校児や学校にしんどさを抱える子どもたちは確実に増えていると思われます。そうしたなかで、居場所の必要性が今後さらに重要視されると思うため、場を大切に育てていきたい。
- ・ 社会状況の急な変化にも柔軟に対応できるよう、一層アイデアと方法、手段を考え行動したい。
- ・ 今年度は様子をみつつ模索しながらのイベント開催となったため、告知もあまり公にはできずじまいでした。今後は現地とオンライン両方をうまく取り入れながら、イベント開催をすすめていけたらと考えており、尾道市の教育委員会にも後援をいただき、3月末に子ども向けイベントを開催予定です。
- ・ 来年度はこのかたちで進めていく一方、オンラインを取り入れたくても不慣れでできない、またネット環境や機器的環境が整っていない子どもや家庭に対しての勉強会も開催し、格差を少しでもなくすことができれば、と考えています。

◆ 活動を終えての感想・意見等

- ・ 今年度は報告会でディスカッションにも参加させていただき、貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。
- ・ 昨年同様、今年度も助成をいただいたことで心強く活動ができました。社会状況の急な変化にも柔軟に対応できるよう、さらにオンライン化をうまく取り入れ活動を充実させたいと考えているので、今後も継続的なご支援をいただけると嬉しいです。
- ・ 場を必要としている人たちにさらに居心地よく過ごしてもらえよう、今後も活動を続けていけたらと思います。

活 動 名	No.19	団 体 名	特定非営利活動法人 とりで
子どもの居場所づくり		活動拠点	広島県大竹市・山口県岩国市
		代 表 者	金本 秀韓
		支援金額	30 万円
団体紹介	理事長の金本秀韓が、前職(児童養護施設 児童指導員 8 年・児童家庭支援センター相談員約 2 年)を経験する中で、さまざまな理由により家庭で暮らせない子ども達の保護の必要性を感じる一方、地域の中には大変な状況に置かれている子どもたちがいることに気付く。そこで「地域が子育てを支える」を理念とした当法人を 2016 年 3 月に設立し、子どもや保護者を含めた子育て家庭への支援を展開していくこととなる。「子どもの居場所づくり」と「子どもの貧困対策」を中心に様々な活動を展開し、親族や行政だけではなく、第三者である「地域」として当法人が、子育て家庭にとって頼れる存在になることを目指している。そして、当法人の活動をきっかけに地域全体で子育てを支えられるような社会づくりに繋がることを期待し、活動を継続していく。		
活動概要	【とりでモーニング】地域の子どもに対する朝食提供と登校支援 ：岩国市立愛宕小学校(山口県岩国市川下中学校区)にて月 2 回、隔週水曜日 7 時半～8 時開催 ：令和 2 年 4 月～1 月で 15 回開催し、子ども延べ 499 名と運営ボランティア延べ 18 名が参加 【大竹こども食堂】地域の子どもたちに対する食事と調理体験・遊びの場の提供 ：白石第 1 自治会集会所(広島県大竹市大竹中学校区)にて月に 2 回、いずれかの土曜日 10～14 時開催 ：令和 2 年 4 月～1 月で 11 回開催し、子ども延べ 295 名と運営ボランティア延べ 28 名が参加 【地域の子どもの居場所づくり】事務所にて子どもへの学習支援や食事支援を行う ：退所児童等アフターケア事務所『めぐり』にて、地域の子どもたちを随時受け入れる ：令和 2 年 5 月開所以降、1 月末迄で 24 名の子どもが過ごしている		



←とりでモーニングの様子

地域の子どもが過ごしている
事務所『めぐり』の様子→





←とりでこども食堂
(大竹中学校区)の様子

◆実施に伴う効果

こども食堂やモーニング等の活動や、事務所「めぐり」で誰かと話しながら何かをすることで、参加した子ども達にとって、とりでで過ごす時間が「一人じゃない、何かあった時に頼れる場所がある」という安心感を与えることができていると考える。

関係を構築していくことで、子どもにとってとりでがひとつの居場所となっており、とりでが開催している活動の中で(こども食堂・モーニング・塾)複数の活動に参加する子どももいる。さまざまな活動を通して子ども達の様子を見ており、支援が必要な課題があれば、解決するための提案を行うことが出来ている。

◆苦労した点

新型コロナウイルスの影響で、申請時に計画していた『高校の校内における子どもの居場所づくり』が中止となった。そのため、同時に申請していた『子どもの居場所づくり』を中心に行ったが、こちらの活動も新型コロナウイルスの影響で、活動に参加する子どもだけでなく、運営に携わってくださるボランティアさんもコロナを懸念されて参加を控える方もおられ、活動を運営する中で人員確保に苦労した。

参加者全員が安全・安心に活動を行うために、職員やボランティアさんと協力しながら、活動場所・使用物品(調理器具や玩具等)の消毒、参加者の検温・手指消毒、部屋の換気、密にならないような席配置の工夫等、感染対策を取りながら活動を運営した。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・新型コロナウイルスの状況を考慮し、感染対策を行いながら出来るだけ子どもの居場所づくりを行っていく。
- ・活動に参加する子どもや事務所に来る子ども同士の関係性を考慮しながらの支援が必要である。
- ・今かかわりのある子どもや家庭だけではなく、他にも支援を必要としている対象者とかかわりを持っていく。そのために、新たな場所での活動を検討していく。
- ・今かかわりのある子どもや家庭に何か困ったことが起きた時に、相談できるような関係性でいられるよう、関係を継続していく。

◆活動を終えての感想・意見等

「子どもの居場所づくり」の活動で、子どもとかかわりながら感じたのは、子どもは家庭とは違う場所で落ち着ける場所や人とかかわりを求めているということである。とりでの活動や事務所を地域交流の拠点にして、今後も子どもの居場所を確保していきたい。さらに必要に応じ、保護者へもコンタクトを取りながら、地域の子育てを支援していく。

活 動 名	No.20	団 体 名	府中町少年少女消防クラブ
広島市少年消防クラブとの合同研修		活動拠点	広島県安芸郡府中町
		代 表 者	浦田 義昭
		支援金額	18 万円
団体紹介	府中町少年少女消防クラブ（BFC）は、将来の地域防災を担う人財育成を目的として、1998 年 7 月に結成されました。活動を通して、子供たちに礼儀や規律力・協調性・自律性を身に付けさせ、防火・防災の知識を持ったリーダーへと成長できるよう、『防火・防災』、『消火・救急』などの訓練や研修を主に府中町消防署で行うほか、町内での防火・防災イベントや清掃事業にも参加し、社会貢献を通して地域・社会に役立つ喜びも経験しています。 現在の構成メンバーは、小学生 21 名、中学生 9 名、高校生 7 名のクラブ員、12 名のボランティア指導員です。中学生が小学生を指導し、小学生の中でも上級生が下級生をまとめ、中学生は高校生が指導しています。 クラブの企画・運営及び活動全体の指導と補助は指導員が担い、企画・運営においてはジュニア指導員である高校生も参加しています。それぞれの役割を持ったクラブ員同士が行動を共にし、成長と共に役割も変化していく人財育成の場としています。 これまで消防士や消防団員を輩出しており、実際にこの先輩達を目指している子も数名います。		
活動概要	① 6/7(日) 消防署にて、BFC 指導員会議：活動方針の決定、年間行事の確認（参加人数：14 名） ② 6/28(日) 消防署にて、入団式：オリエンテーション、自己紹介、放水訓練等（28 名） ③ 7/19(日) 消防署にて、基本研修：起立訓練、ロープ取扱い訓練、救急講習等（49 名） ④ 7/26(日) 消防署にて、消防体験会：救命・はしご車・煙・消火等、来場者の体験補助（33 名） ⑤ 8/30(日) 水分峡にて、夏季自然ふれあい研修：ウォークラリー形式実習（37 名） ⑥ 9/13(日) 府中町内にて、防災ウォークラリー：町内重要文化財等視察（26 名） ⑦ 9/20(日) 消防署にて、防災マップ作成：毎年開催の全国コンクールへの提出の為（12 名） ⑧ 9/27(日) 消防署にて、防災マップ作成：同上（13 名） ⑨ 10/4 (日) 消防署にて、防災マップ作成：同上（19 名） ⑩ 10/11(日) 広島県防災航空センター（三原市）にて、防災センター視察研修（28 名） ⑪ 11/1(日) 府中町揚倉山運動公園にて、BFC 競技大会：本年度新規の行事で、クラブ員の家族を交えての開催（42 名）《予定していた他消防クラブとの合同研修の開催がコロナ禍により中止となり、代替》 ⑫ 11/15(日) 府中町イオンモールにて、イオン防災王国：はしご車・煙・消火等、来場者の体験補助（15 名） ⑬ 11/29(日) 消防署にて、基本研修：起立訓練、防火・防災についての映像学習等（28 名） 延べ参加人数は小学生 114 名、中学生 53 名、高校生 27 名、保護者 32 名、指導員 86 名、事務局員 32 名、計 344 名の実績がありました。（2021 年 2 月時点） なお、①～⑩、⑫⑬は毎年行事、その他 4 月、5 月、12 月～2 月の予定行事はコロナ禍で中止しています。		



競技大会①：開始前に まずは準備体操、安全第一！



競技大会②：最初の競技は障害物、柵越え！



競技大会③：水消火器で標的に狙いを定めて！



競技大会④：ゴールめがけて、負傷者を担架で運べ！

◆実施に伴う効果

クラブ員の家族を交えてのBFC競技大会に必要な障害物（障害柵、ハードル、平均台、ロープ、ロープ結索台、障害トンネル、プロテクター等）一式を、御財団様の支援により準備することが出来ました。この障害物一式は、今回に限らず幾度も活用することが出来ますので、本クラブのみに限らず他の消防クラブとの交流による競技大会に発展させ、共に技術を高めていけるツールとして、未永く大事に使わせて頂きます。

なお、本大会では初めて中高校生に企画から実施までの役割を与えてみました。結果とても良い行事となり、達成感を味わえ、確実に自信にも繋がっています。また、支援金の一部を検定制度導入に係る検定バッジ作成にも当てさせて頂きました。実際にバッジを手にして、クラブ員のモチベーションも確実にアップしています。こちらも汎用性がありますので、今後の活動を充実させるツールとして使わせて頂きます。

◆苦労した点

当初計画していた他の消防クラブとの合同研修が出来なくなり、準備していたことを中止するか、どのようにしたら安全に出来るのかの判断を迫られる中、諦めずに自分たちで出来る事として、本クラブ員の家族を交えての競技大会としました。開催にあたっては、実際に『少年消防クラブ全国大会』に出場経験のある中高校生が中心となって、企画から準備と大会当日の終了に至るまでやってくれました。具体的には、コロナ感染予防対策を含め、家族も楽しめ安全も配慮した競技内容の選択とスケジュール立て、その予行演習と調整、参加者集めとグループ分け、開催当日の準備方法決め等、手探りでしたが、弱音をはかずに一緒にがんばって行ってくれました。

◆今後の課題・発展の方向性

クラブ員のレベルアップとモチベーションアップを図る目的で、今回の活動は引き続き行っていますが、成長と共に役割も変化していく人財育成の場としている本クラブを存続していくには、新規クラブ員の入団も必須です。

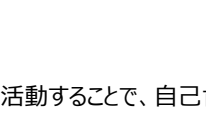
コロナ禍の中、活動・活躍の場が限られており、その中で活動方針を維持しつつ、安全性を持ってアピールしていけるかが課題と認識しています。

◆活動を終えての感想・意見等

活動の場は激減してしまいましたが、そんな中でも子供たちは確実に成長し頼もしくなってくれています。

ごく限られた活動の場を最大限活かし、子供たちのこれからの可能性を伸ばせるよう、できる限り活動・人財育成のサポートをしてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

活 動 名	No.21	団 体 名	矢野の家
子どもから高齢者まで誰もが来られる地域の家		活動拠点	広島市安芸区
		代 表 者	上 郁子
		支援金額	4 3 万円
団体紹介	【結成時期】 2013 年 3 月 同じ職場で働く母親スタッフによる子育て支援から活動開始。 2016 年 8 月 安芸区矢野にある空き家を活用した拠点を置き、「地域」「子育て」「健康」この 3 本柱が混ざり合う活動を地域住民の力を借りながら広げ、多世代交流を行い、居場所づくりを行っている。 【構成メンバー】 多世代の地域住民、並びに近隣の有志 【結成の目的】 「地域の居場所」として、子どもから高齢者までが共に支え合う地域づくりを目的とする。 【活動方針】 ①子どもから高齢者までどなたでも来て頂ける地域の家として、誰もがホッとでき安心できる第三の居場所づくりを行う。 ②人とつながるきっかけを創り出し、「健康であること」「楽しい暮らしであること」を目指し、多世代でつながり合い、支え合うことで温かい地域づくりを行う。 ③多世代交流により、各世代が結びつき混ざり合うことで、相乗効果を生み出し、地域の活性化を目指す。		
活動概要	今年度は新型コロナウイルスによる感染拡大防止により、活動を自粛する中、人とのつながりを継続するために自分たちができることは何かを考え、活動を行った。 ①お弁当配食(毎月 2 回 100 食程度) ◇休校となり、友達に会えず、保護者の帰りを待つ子ども達に、衛生管理を徹底しお弁当を提供した。時間差で来訪してもらい、久しぶりの友達との再会・スタッフとのやりとりを楽しみ、お弁当を持ち帰っていた。在宅ワークや休業中の保護者にとっても負担軽減となり、喜ばれ、改めて地域食堂の役割を知ってもらうことができた。 ②介護予防拠点としてオープン（木曜 14 時～16 時 30 名程度）介護予防の一環として高齢者さん向けの健康体操を行う。コロナ禍の中、お話し会はすべて中止にしたが、個別相談やお弁当配食も利用してもらいながら通いの場として利用してもらった。 ③ひとり親家庭等居場所づくり事業 毎週木曜 16 時～19 時 ひとり親家庭等居場所づくり『ぽかぽか』を開催し、遊びや学習支援、食事提供を行う。（10 名程度の参加）子ども達とのつながりも深まり学校や家庭での悩みを相談する場所としても機能している。（広島市からの中止要請がきた集中対策期間のみ閉所） ◇子どもへの支援者として、自らの経験を生かした大学生スタッフが入ることで、双方の成長につなげていく。 ④第 1・3 金曜日 16 時～19 時に『地域・こども食堂』を開催、無料学習支援と晩ごはんの提供（50 食程度） ◇食べる人、作る人の全員が地域の人であることにより、顔のわかる地域づくりに繋げ、子ども達の健やかな成長を目指す。また、参加者であった中学生が高校生となり、大学生と共にスタッフとして動くことで、青年たちが地域での役割を担う場として発展させている。 ⑥季節の行事を開催 ※対象は幼・小・中学生と地域の方（10～30 名参加） ◇青少年活動の一環とした梅もぎ体験・野菜の植付けから収穫を行った。 ◇季節行事は規模を縮小し、お弁当提供に加え、子ども達が楽しめる要素を盛り込んだ。（お花見、お月見、ハロウィン、芋ほり、クリスマス、炊き出し） ⑧定期的に青少年応援プロジェクトを開催 ※新たな取り組み ◇高校生から大学生を対象に、交流・体験活動を行う。行事に参加するだけでなく、自ら企画し、役割を担って活動することで、自己肯定感を育み社会参画に向かう力を育成し、次世代の担い手づくりを目指す。 ・地域行事・矢野の家の活動に参加 ・専門分野の講師による講座（JICA サロン、建築士によるセミナー等）		



- ・青年交流キャンプ・体験活動
- ・子ども達への支援

継続的、定期的に交流し、信頼関係を築きながら支援することで子どもの心のケア、精神的発達を促し、双方の成長をめざす。

- ・地域の居場所として新たな活用プロジェクト（地域の匠とともに）

◆実施に伴う効果

〔矢野の家青年部の視点から〕

矢野の家の活動に参加する中、担い手としての役割を持つことで、自らの居場所を得ることができた。その安心できる居場所があることは、自信をもって子ども達と接することや、青少年代での異年齢のつながりが生まれ共に活動する機会につながった。この自らの経験を、さらに下の世代に伝えていくことが私たち青年部の役割だと感じている。

また、コロナ禍で各開催行事の開催規模を縮小せざるを得なくなったが、野外活動や季節の行事の企画・開催などで運営する上での心構え、段取り、参加者の様子を見て状況を把握するノウハウを得ることができた。

矢野の家が自主運営を目指すことになり、青少年プロジェクトを立ち上げ、地域の建築士「匠」監修のもと、改装計画や設計を担当させていただいた。既存の設備を有効活用し、建築のノウハウを学ぶだけでなく、計画に携わる当事者としての意識を持つことなども教わり、この当事者意識は完成して終わりではなく、今後の活用を考えることにつながっている。

〔全体を通して〕

コロナ禍を経験し、身近な通いの場となる居場所の必要性を来訪される側から聞くようになった。活動の積み重ね効果だと感じる。既存組織や地縁組織にとらわれない活動、場所も地域に必要と思われることが前進であり、また信頼関係も生まれている。こういった地域との関わりがモデルケースとして取り上げられる機会を生んでいる。



◆苦労した点

〔矢野の家青年部の視点から〕

矢野の家の活動に参加する中で、今まで関わったことのないほど多様な訪問者の人々とコミュニケーションする必要があった。特に子どもとの交流を重視していたが、基本となる矢野の家の活動自体が新型コロナウイルス感染症の流行により活動規模を縮小せざるを得なくなっていた。そのような環境下で、子どもと触れ合う貴重な時間の過ごし方や感染予防と子どもとの接し方のバランスを考え、活動した。

また、子ども達と接する上で、他世代のスタッフの皆さんとは異なる青年部ならではの強みを考えた。世代の近さを活かし、日常の色々な出来事を気軽に話してもらえる存在を目指して活動してきた。様々な個性をもつ子ども達に対して、それぞれに応じた接し方をしようと試みたが、心の壁を越えてもらえるまでの道のりの長さを知った。

〔全体を通して〕

人とのふれあいを大切にして居場所づくりをする私たちにとって、ソーシャルディスタンスを保ちながらどのように活動していくのか、感染リスクをどうとらえ、抑えるかが大きな課題であった。特に子ども達にソーシャルディスタンスを保つように声をかけることは、安易に距離をとっているようにも感じられてしまい、難しさを感じた。

◆今後の課題・発展の方向性

3年間の助成をしていただいた私どもの活動であったが、今後は助成金に頼らず自主運営を行っていかなければなりません。市民活動の課題でもある自主運営を実現するために、矢野の家は地域の支え合いステーションとなる「やの屋」という事業を新たに立ち上げ、参加者から担い手になってくれた方々や青少年リーダーとともに、矢野の家を支えるための仕組みづくりを行っている。「やの屋」は、半分福祉、半分事業という考え方をもとに運営し、世代が融合しながら共生し、生きがい・やりがいを持てる新しい居場所となるような未来像を描いている。

青年部では、地域の方に喜んでもらえる交流の場になるよう、ピザ窯やバーベキューコンロがある庭を整備したいと考え、取り組み始めている。様々な行事を開催できる場所を整え、積極的に青少年や地域住民との交流の機会を作っていきたい。



◆活動を終えての感想・意見等

3年間にわたるご支援に大変感謝しております。集大成となった3年目は青年部が積極的に携わり、世代を超えた地域とのつながりを持つだけでなく、活動を通して社会とのつながりを持てる飛躍の年となりました。新型コロナウイルス感染症による活動自粛という特別な年となりましたが、改めて人と人とのつながり合い、支え合いの必要性を感じた年でもあります。市民活動の課題でもある自主運営、活動継続に向けて新たなステップを踏み出し始めました。これまで培ってきた多世代の仲間と共に活動を広げていきます。温かいご支援ありがとうございました。

活 動 名	No.22	団 体 名	(一社) ひろしま防災減災支援協会
地域を愛し、自分の命は自分が守る青少年を 養成する、防災士による地域防災活動	活動拠点	広島市安佐北区、安芸区など	
	代 表 者	柳迫 長三	
	支援金額	1 8 万円	
団体紹介			
一般社団法人 ひろしま防災減災支援協会			
母体である広島市防災士ネットワークの会員有志4名で2019年6月に一般社団法人を設立			
・ 活動母体である広島市防災ネットワークの活動計画の作成、防災・減災プログラムの企画・開発等			
・ 事業受託を含む行政（広島市、広島県）との一層の連携強化			
広島市防災士ネットワーク 2015年1月に設立。広島市在住の防災士を中心に約130名で活動			
・ 防災士の研修→防災知識・技術、コミュニティ力で地域の活動を支援			
・ 青少年を対象にする防災活動の企画・運営			
「鯉こいキャラバン」「小学生防災フェスティバル・小学生防災マップ」など			
・ 学区単位で実施される防災活動の支援 ・ 行政等との連携活動			
活動概要			
① 定例研修会（年11回：中区福祉センター） 会員の防災士を対象に防災研修 40名程度（回）			
② 学校、地域での防災イベントへの参加と活動の支援			
● 小学生防災活動の支援「落合っ子防災フェスティバル」、「小屋浦キッズ防災士」			
・ 2月10日 安佐北区落合小学校6年生（3組120名）のグループ活動の発表会を支援			
・ 4月～12月 坂町小屋浦小学校4年生（13名）の「小屋浦キッズ防災士」活動を支援			
…ハード対策、気象を学習～地域防災マップを作製（→ぼうさい甲子園：ぼうさい大賞を受賞）			
● ぼうさいこくたい2020…防災スタンプラリー「鯉こいキャラバン」ワークショップ			
・ 10月3日（土） コロナ禍であり、オンラインでのワークショップに企画・参画			
● 「広島市防災まちづくり事業」…防災まち歩き、防災マップ作成、DIG 訓練など。約50回			
③ 市民防災講座			
● 市民を対象にした、防災に関する身近な情報提供…年に5回開催 平均30名参加			
④ 「広島市災害ボランティア連絡調整会議」、「太田川水防災タイムライン」検討会への参加			
【公式ホームページ】			
当会の概要、会員間の情報共有、防災活動情報、防災に関する情報提供、研修会情報などを目的にホームページを運営。有効に活用しています。			



落合小学校



ぼうさいこくたい2020



小屋浦小学校



小屋浦小学校

◆実施に伴う効果

防災力強化のためには、地域住民、所在する事業所、地域に関わる団体・教育機関などが、連携して取り組み強化を図ることが不可欠である。まずは、地域、そのなかでも、青少年層、特に生徒の防災意識醸成と防災活動への参加が重要課題の一つである。

今年度は、小学生を対象にした防災プログラムを実践した。小学生自らが地域を歩き、砂防ダムなどのハード対策を確認するとともに、ため池、沢などリスクと考えられる地域も確認。気象、地形など広島地域性も加味したプログラムで、参加した小学生は楽しく防災活動に参加し、結果として防災意識・地域の郷土愛の醸成につながったと考えている。参加した小学生からは、「命スイッチが大事」、「やってみれば面白い」との声もあり、親御さんへの啓蒙にもつながっており、地域のコミュニティー意識の向上に貢献できたものと考えている。

◆苦労した点

防災活動は総論では賛成を得られやすいが、具体段階になると自主的な実践に二の足を踏む団体・法人が少ない。実施する法人・団体の決定権者との事前調整に苦労している。

コロナ禍での活動であり、イベント関係はオンラインミーティングでの実施を余儀なくされ、当初はオンラインの技術的ノウハウの習得に苦労した。「鯉こいキャラバン」ワークショップを実施したぼうさいこくたい2020もオンライン方式のワークショップであったが、参画メンバーの尽力で当初の目的は達成できた。

ここ数年で苦労している点に活動参加者の高齢化がある。防災士の性質上、地域自治会・町内会の役員層が多いが、所属メンバーの努力により、徐々にではあるが、若年層、女性の参加が増えつつある。

防災分野でも新しい技術を活用したツールができていますが、対応できる会員は少なく、利活用に苦労している。

◆今後の課題・発展の方向性

防災・減災にもイノベーションが必要な時期にきていると痛感している。

新年度は活動の質的進化、及び活動範囲の拡大を志向する。

- ・ 従前の「脅しの防災」、「知識の防災」から「助ける側への姿勢の防災」への質的向上を目指す。
- ・ 活動地域も、広島市東部の府中町、坂町、東広島市等へ拡大と、他の地域との連携も図る。

「自助」・「共助」・「公助」を求められるなか、特に「共助」部分を厚くする活動に貢献したい。具体的には、地域に所在する企業との連携を推進したい。

◆活動を終えての感想・意見等

財団の活動に参画することで、前年度に計画を作成し、中間の活動分析を行い、年度末に活動成果をまとめるといった、法人としての基本的なマネジメントを実践している経験が大きい。

また、財団で企画いただいた参加団体の交流会では、各団体が工夫されている実状を拝聴することができ、大変参考になっています。

引き続き、宜しくお願いいたします。

活 動 名	No.23	団 体 名	ブルーベリーくらぶ
「庚午の町を将来帰ってきたい町に！」プロジェクト わんわんパトロールで声を掛け合う町づくり		活動拠点	広島市西区
		代 表 者	桑野 栄子
		支援金額	19万円

団体紹介	2019年6月 結成 メンバーは、子育て世代のボランティアをしているお母さん方、14名で結成 現在 20名 地域の役員は、一人が何役も兼任して担い手不足が深刻です、将来の町づくりのために立ち上げました。 メンバーとの話し合いのワークショップの中で、10年後 子ども達が将来 帰ってきたい町にしたいとの意見があり、活動方針が「庚午の町を将来 帰ってきたい町に！」に決まりました。
------	--

活動概要	わんわんパトロールに入会時に、リードボーンとお散歩バックをお渡しします。 わんちゃんのお散歩時に、子どもを見かけたら見守っていただきます、会員さんの見守りは毎日実施。 わんちゃんのいない、趣旨に賛同された会員さんも、お散歩見守り実施。 会員さん同士の顔見知りをつくるため、適時イベントを企画、実施。 コロナ禍で予定していた企画、すべてはできませんでした。 2020年6月 庚午第一公園 発足の集い 災害時のワンちゃんの対応について講演雨の中決行 20人参加 2020年8月 庚午北集会所 子どもとわんちゃんのハロウィン祭りに向けての、仮装小物の作成。 密を避けるため、限定予約 10人参加、外でわんわんカフェ開催。 2020年9月 庚午第二公園 ピースわんこジャパンの方に、飼育放棄されたわんちゃんの、里親制度等々のお話 30人参加、わんわんカフェ開催。 2020年10月 庚午第一公園 ハロウィン祭り 子ども達がスタンプラリーでそれぞれのコーナーを回り、クイズに挑戦、フルートやピアノの生演奏、写真撮影コーナーも設置 100人参加、わんわんカフェ
------	---

2020年9月わんわんパトロール企画
「ピースワンコ・ジャパン」
の活動を知ろう！

主催 ブルーベリーくらぶ
後援 公益財団法人 マツダ財団
庚午地区社会福祉協議会
広島市「まるごと元気」地域117活性化補助金事業

ピースワンコ・ジャパンとは認定NPO法人ピースワンコ・ジャパンが、人と犬の助け合いを通じた地域の活性化を目指して、広島県神石高原町を拠点に運営するプロジェクトです。
2012年、広島県内で殺処分となった犬の引き取りを開始し、2016年以降「殺処分ゼロ」を継続しています。保護した犬は適切な医療、トレーニングを経て新しい里親さんに譲渡します。

そうした活動について、ピースワンコ・ジャパンの方にきていただいて、お話を聞きます。

9月26日(土)10:00~12:00
雨天の場合は10月3日(土)に延期
庚午第2公園 (予約不要)
・トレーナーさんによる相談会
・わんわんカフェでコーヒー販売
※駐車場はありませんので、近隣道路や商業施設への駐車はご遠慮ください

随時会員募集
(登録された方にはグッズのプレゼントがあります)
まだ登録されてない方は、わんわんパトロール公式LINEへお願いします。左QRコードからどうぞ
または 090-1332-9863(平松)へ電話かショートメールをお願いします




ピースわんこジャパンとのイベントチラシ

マツダ財団ゴロ入りのぼり旗完成 10本！



スタッフの集合写真です！



子ども達とスタンプラリー

◆実施に伴う効果

- ★日時に関係なく、自分のできる時に地域の見守りをしていただくことで、地域のやさしさを形に、新しい形の見守りの道筋ができたように思います。わんわんパトロール会員50名・わんちゃんのいないお散歩見守り会員40名
- ★同じバックやリードボーンを見かけると、話しかけたり、イベントのカフェで話が弾んだり、活動を通して多世代の顔見知りができ、災害等にも効果があると思います。
- ★スタッフメンバー私も含めまだまだですが、実践の場で成長させていただきました。

◆苦労した点

- ★コロナ禍で、当初考えていた中学生ボランティアを巻き込んでの、企画・準備・実施ができませんでした。
- ★初めての取り組みで、掲示板と回覧板でお知らせをしましたが、地域の方から何をするのか、よくわからないとのご指摘を頂き、解かりやすくして簡潔なチラシの作成に悩みました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ★今後中学生ボランティアと共に、SDGsや、社会問題などにも取り組んでいきたい。
- ★小学校とも連携して、新たな見守りマップ等も作成したい。
- ★SNSをもっと活用して、発信してしていきたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

- ★何も実績のないブルーベリーくらぶに助成金を出していただいた事、本当に感謝しています。
- ★私も地域のお役に立てて嬉しいとの声をいただき、始めてよかったとメンバーと共に感動しています。
- ★市政と市民、中国新聞、ヤフーニュース等々、取り上げていただきましたが、もっと内容を充実させていきたいと考えています。
- ★これからも、フィジカルディスタンスを保ちながら、新しい形の多世代の人との繋がりを作っていきます、ありがとうございました！

活 動 名	No.24	団 体 名	特定非営利活動法人 I PRAY
被爆 75 周年事業 平和創作劇 IPRAY2020		活動拠点	広島市中区
		代 表 者	上久保 昭二
		支援金額	27 万円
団体紹介	1996 年 IPRAY 活動し、2010 年 NPO 法人化、出演者 30 人～40 人（過去に 70 名程度出演の年もありました。） 未来を担う子ども達が、被爆体験を継承し、自ら学び、演じ、平和と命の大切さを伝え、世界平和に寄与することを目的とする。 IPRAY ストーリー 舞台は、ある夏の日の広島。 人々はその日もせわしない朝を 過ごしていました。 時間は 午前 8 時を少し過ぎたころ 一発の核爆弾が 投下され、 その凄まじい閃光と暴風は 広島を覆い、 建物や人々を 焼き尽くしました。 しかし、広島は 原爆に負けませんでした。 広島は 緑を取り戻し、 平和の象徴の都市として世界に名を知られる事になったのです。		
活動概要	8 月 23 日（日）アステールプラザ大ホール 被爆 75 周年事業 平和創作劇 IPRAY2020 来場者数 260 名 + YouTube 配信瞬間視聴最大 250 名 3 月より、出演者募集開始と同時に公演に向けて、練習を開始。 新型コロナウイルスの影響により、公共施設利用ができない期間もあり、通常より異なる練習となりました。 また、定期公演も当初 8 月 4 日に予定していたが、子供たちの休校期間が多く夏休み縮小に伴い 4 日学校ということもあつたり、感染者が抑えられていない現実から、23 日に延期し、入場者制限を設け、IPRAY 活動 25 年ではじめて、YouTube 生配信を実施しました。県外、海外の方も閲覧していただく事が出来ました。		





◆実施に伴う効果

25年活動してきて、初めてネット生配信をして県外の方や普段観に出来ない海外の方へライブ配信することができ、IPRAY活動をより多くの方々へ知って頂けたと実感しております。

コロナウイルスの事が無かったら新しい取り組みを意識しておりませんでした。WITHコロナ時代として新しい取り組みの一つが生まれたと思っており、これからもライブ配信は継続して実施し、一人でも多くの方へ賛同していけたらと思います。

◆苦労した点

初のライブ配信で、インターネット接続問題や海外の方へ向けた字幕（翻訳）を入れるという新たな取り組みによって発生した内容制作に非常に苦労し、開演ギリギリまで調整が続きました。

この経験を活かし、2021定期公演から活用出来たらと思っています。

◆今後の課題・発展の方向性

ライブ配信を通じて、多くの方々に知って頂けたので、SNS、ライブ配信などを通じて、IPRAY活動を国内を超えて海外にも積極的に活動をしていきたいと考えております。県外各地より、講演依頼もおかげさまで頂いておりますが、コロナ状況を見ながら実施をしていきたいと考えております。

◆活動を終えての感想・意見等

新型コロナウイルスウィルス感染拡大防止に努めた、座席準備や受付の消毒設置など、いままで不要だったことが必要になったりと大変な公演でしたが、周年事業として松井広島市長にも出演していただくことができたことは良かったです。

松井広島市長から毎年特別顧問として支えていただけることをご承諾を頂いております。

WITH コロナと向き合いながら、更なる活動発展に努めていきたいと思っております。

マツダ財団の皆様、ご支援賜りましてありがとうございました。

活 動 名	No.25	団 体 名	安芸太田町立上殿小学校
やまゆり活動（第 70 回やまゆり訪問）		活動拠点	広島県山県郡安芸太田町
		代 表 者	板倉 孝志
		支援金額	12 万円
団体紹介	本校は明治6（1863）年に上殿村字堂之本に学舎が設けられたのが始まりです。その後、昭和31年の町村合併により戸河内町立上殿小学校、平成16年の町村合併により「安芸太田町立上殿小学校」と改正され、現在に至っています。 学校教育目標を「豊かな人間性と将来を生きぬく児童の育成」とし、「子供も教職員もいのち輝く学校」「個の良さを生かし伸ばす学校」「保護者・地域とつながる学校」の3つの柱を目指す学校像として日々の教育活動を推進しています。 本校の中心的な取組の一つである「やまゆり活動」は、昭和26年より始まりました。今年が70回目です。地域・保護者の方の協力を得ながら、周辺地域の山々からササユリを採取し、広島赤十字・原爆病院に被爆をして入院しておられた方に当時の児童が届けたのが始まりです。その後、この訪問を中心に、児童の平和を願う心を育むよう様々な活動を展開してきました。		
活動概要	1 やまゆり文集・DVD（児童からのメッセージ動画）の制作（4～5月 全校児童 25名） （1）日頃の子供たちの様子や平和・高齢者への思いにふれてもらえるように文集やDVDを制作し、訪問先に送る。 2 ササユリ採取・フラワーアレンジメントの制作（6月9日 全校児童 25名） （1）ササユリ採取（場所：ササユリ栽培地） ※地域の方を講師に招聘 ・学校裏の山にある栽培地においてササユリの採取を行う。 ※12月にササユリの球根を植えて、次年度以降の活動につなげる。 （2）フラワーアレンジメント作り ※保護者2名を講師に招聘 ・訪問先の患者様やお年寄りの方一人一人に渡せるように、児童一人一人が小さなものを数個ずつ作る。 ・大きな籠入りものを4つ作り、訪問先の各施設に送る。 2 第70回やまゆり訪問（6月10日 全校児童 25名） （1）広島赤十字・原爆病院及び町内の病院・福祉3施設を4つのグループに分かれて訪問する。 ・広島赤十字・原爆病院へは全校での訪問を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、4つのグループに分かれて各施設を訪問し、玄関前で各施設の代表の方にメッセージ動画を収録したDVDや千羽鶴、やまゆり文集、フラワーアレンジメントを手渡す。		



「やまゆり訪問」の由来ともなっているササユリの採取です。近年は自然のササユリが減少してきたため、学校近くの山で球根や種を植えながら栽培をしています。地域の方が草刈りなど、栽培地の維持・管理に協力をしてくださっています。



採取したササユリを使い、フラワーアレンジメントの制作を行いました。例年は、多くの保護者の皆様に御協力をいただきますが、本年度は感染防止対策のため数名の講師の方のみに限定し、指導をしていただきました。



6年生児童が上殿小学校を代表して広島赤十字・原爆病院を訪問し、心を込めて作った千羽鶴やフラワーアレンジメント、やまゆり文集を病院の代表の方に手渡しました。これらは後ほど、施設内に飾ってくださり、入所者の皆様に喜んでいただけたということです。



1～5年生は3つのグループに分かれて町内の3施設を訪問しました。窓越しでの対面となりましたが、子供たちの訪問を喜んでくださり、笑顔で迎えてくださいました。

◆実施に伴う効果

新型コロナウイルス感染拡大の影響により学校行事の実施や関係機関への人の出入りが制限される中での「やまゆり訪問」となりました。このような状況の中でも訪問先を4つのグループに分けて分担し、フラワーアレンジメントや文集、DVDに収めた児童の動画を届けました。保護者の皆様、安芸太田町教育委員会、訪問先の関係機関の御理解と御協力により、可能な方法を探りながら何とか実施することができました。後ほどいただいた礼状には、訪問した児童の様子を窓越しに見て、利用者の方が笑顔になってくださったたり、飾られたフラワーアレンジメントを見て喜んでくださったことが書かれており、訪問先の皆様が喜んでくださった様子を伺うことができました。

新型コロナウイルスの影響による限られた時間の中で準備をし、訪問をした児童も充実感を味わい、次年度に向けて伝統を受け継ぐ気持ちを育むことができました。

◆苦労した点

第70回目を迎えた「やまゆり訪問」ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の計画とは大きく異なるものとなりました。今回は第70回という節目の年にあたり、本来であれば午前中に町内三施設、午後から広島赤十字・原爆病院を全校で訪問し、入所者の皆様と交流をする計画でした。しかし、三密を避けるため、全校一台でのバス移動ができないこと、訪問先の施設内への入場が制限されていること、町外への移動について保護者や関係機関の理解と協力が必要なことなどがあり、計画を見直さざる得ないところがありました。県内の感染状況を見ながら、これらの点をクリアするとともに、入所者の皆様との交流に代わるものとして児童からのメッセージ動画をDVDに収録するなど、可能な方法を探ることで今回の訪問を実現することができました。苦労した点としては、このように考えます。

◆今後の課題・発展の方向性

新型コロナウイルス感染症の終わりが見えず、配慮が必要な状況が続いています。With コロナ時代において、対面での交流は難しくとも持ち方を工夫することで、入所者の方に児童の思いや元気を届けることができました。今後の感染状況にもよりますが、本年度に実施した内容を踏まえ、改善を加えることで71回目以降の「やまゆり訪問」を継続、発展をさせていくことができると考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況の中で、何とか訪問を行うことができました。本年度、70回という節目を迎えた「やまゆり訪問」ですが、これまで中止をしたことはないということです。途切れることなく受け継がれてきた「やまゆり訪問」を、今後とも継続していきたいと考えています。

マツダ財団様に財政面での支援をしていただいたことで、70回目という記念の活動を無事に行うことができました。感謝を申し上げます。

活 動 名	No.26	団 体 名	豊栄郷土カルタをつくろう会
豊栄郷土カルタをつくろう		活動拠点	広島県東広島市
		代 表 者	原田 忠幸
		支援金額	29万円
団体紹介	結成時期：2019（令和1）年6月21日 構成メンバー：10人（男性3人、女性7人）内4人は現役 結成の目的：①豊栄の歴史、史跡、自然、動植物、商工業等を題材に、「豊栄郷土カルタ」を作る。②カルタ作りを通して、豊栄を再発見し、郷土愛を育み、地域の一員として地域活動・地域づくりの促進につなげる。特に、子供たちは、大人になっても豊栄に住み続けたいと思う一助につなげる。 活動方針：①豊栄小学校、地域の方、町内各地域センター等と連携する。②児童対象の町内6地域巡り「地域探検ツアー」を6コース行う。③カルタ取り札の「絵」は、児童に描かせる。④カルタには、絵の内容説明書きを記載する。⑤カルタ読み札は、児童が詠んだ「五七五」を優先使用する。但し、修正と不足分は大人が詠む。⑥活動期間は3年とする。（2020年度は2年目）		
活動概要	① カルタ取り札の原画描き（豊栄小学校児童の希望者による原画描き） 場所：豊栄小学校 実施日：2020年4月から6月まではコロナのため活動停止 2020年7月4回、8月2回、9月4回、10月4回、11月3回12月2回 の合計19回 1回の活動時間：児童は、下校時のスクールバス待ち時間の20～30分程度。 スタッフは、絵筆、水等の準備、指導及び片付けで40分～50分程度。 参加人数（児童）：コロナ感染防止のため学年単位で絵を描く。1回当たり多くて8人程度 参加人数（スタッフ）：4人から10人 *町内 絵画クラブ員が時々絵の指導で参加 ② 町内探検ツアー（マイクロバス利用 乗車は児童とスタッフ2人、他は自家用自動車、探検場所では地域の方の説明） 場所：清武西地域 実施日：2020年10月4日 8:30～16:00（スタッフによる下見勉強 2020年7月22日） 参加人員：児童 9人（コロナの為最大人数） スタッフ：10人 特別参加：豊栄小学校長 探検場所：光田瓦店、米山集会所（廃法恩寺の観世音菩薩立像見学）、豊栄飛行場、りんご園 場所：安宿地域 実施日：2020年11月29日 8:30～15:30（スタッフによる下見勉強10月12日 9:00～15:00） 参加人員：児童 9人（コロナの為最大人数） スタッフ：10人 ④カルタは印刷業者から 探検場所：どんどん淵、道標、岩屋観音堂、水晶山、豊栄民俗資料室 2021年1月29日納入 ③ 運営会議（上記①②実施に伴う、計画・立案・反省及びカルタ原稿作成のための会議。その他） 回数：4/6～2/8まで12回 実施場所：主に乃美地域センター 所要時間：約2時間／1回		



【米山集会所】廃法恩寺観世音菩薩立像 地元の方の説明



【水晶山】水晶探しと大きな水晶を見つけ喜ぶ子供



地域探検ツアー後の感想文、スケッチ等の作成



【取り札原画展】豊栄小学校にて

◆実施に伴う効果

- ① 探検ツアーでは、現地の方（主に高齢者）の説明が町史に載っていない生活体験が含まれ、子供たちが興味を示すしづが多かった。この事は、目的とする「地域に関心を持った」ことでもある。観音様の話、水晶の話など。
- ② カルタにする予定の無い探検場所で、地域の方から「カルタにしてくれてありがとう」と言われ、急遽、カルタに組み入れた。これは、この活動が「郷土愛・地域づくりの」一助となっていることの証でもある。
- ③ 子供の描き終えた絵を展示することで、自分の描いた絵以外を見ることで「豊栄を知る」に繋がられたのではと思う。（参考）来年度も引き続き原画展を公共施設等で実施し、一般に広く知らしめたい。
- ④ 会員が探検ツアー及びカルタ作りを通し、自己研鑽に努めたことは、この経験が、将来同様の活動が企画された場合、十分生かされる素地ができた。

◆苦労した点

- ① コロナ感染防止のため、予定した探検ツアーが2回しか出来なかった。（3回目の実施は、3月下旬から4月上旬予定）残り3回は、2021年度の実施予定。
- ② コロナ感染防止のため、児童の絵描きが4月から6月下旬まで停止し、絵の完成ひいてはカルタ作成も危ぶまれた。豊栄小学校の絶大なる応援で約60%（32種類）のカルタができた。
- ③ 絵描きが長期に渡ったため、児童の絵描きのモチベーションの維持に苦労した。しかし、完成した絵を学校内で展示したので、児童も達成感を味わうことができたのではと思われる。
- ④ 探検ツアーでは、子供たちに楽しい思い出と達成感を感じさせるために、「クイズ」「がんばった賞状」等を考えるのが大変だった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ① カルタ未作成の「読み札の五七五」と「取り札の絵」を児童が作ってくれるか否か心配である。場合によっては、大人が絵を描くことも検討課題（理由：文頭の“いろは”は、日本語の単語として少ない部分であり、絵としても魅力ある探検地が少ないため）
- ② カルタ完成後、カルタを町内地域センター、福祉施設等に無料で配布し、活用してもらいたい。
- ③ 近い将来、カルタの読み札・取り札・説明文を小冊子にし、町民希望者に配布（有料）したい。配布することで、町民一人一人により豊栄を知ってもらいたい。
- ④ 引き続き、来年度も継続活動予定であるが、活動資金の工面が課題である。

◆活動を終えての感想・意見等

- ① この一年の活動は、目的達成度の自己採点で60パーセントぐらいと考える。
- ② 7月から毎週1回豊栄小学校へ絵描きの指導・見守りのための訪問は、会員として大変だった。
- ③ カルタが形になったことは、マツダ財団をはじめ、豊栄小学校、町内のボランティア説明者、各地域センター、豊栄生涯学習センター等の支援をいただいたおかげと感謝にたえません。

活 動 名	No.27	団 体 名	UME プロジェクト
居場所づくり		活動拠点	広島県尾道市
		代 表 者	高橋 真理子
		支援金額	19 万円
団体紹介	2019 年 11 月任意団体 UME プロジェクトを発足、2020 年 5 月地区の社会福祉協議会の取り組みとなる。構成メンバーは、総勢 70 名(内訳 運営スタッフ 10 名 実働ボランティア 14 名 小学生 16 名 中学生 2 名 高校生 8 名 大学生 7 名 他賛同会員 13 名) 尾道市の飛び地となる、浦崎町は、まわりを福山市(沼隈町常石・藤江町)に取り囲まれており、このあたり一帯を「うらしま」とよぶ。少子・高齢化が加速し、過疎化がすすみ、地域の繋がりの希薄化・若い世代の共働き世帯の増加など、また子育て家庭の孤立化、教育格差など多様な世代の関わりが少なくなる地域社会の課題に、地域みんなで取り組むことが求められている。課題解決に向け、地域住民参画のもと、地元大学と共同研究を締結し、空き家利活用の「こどもたちと多世代交流の居場所づくり」プロジェクトに取り組むことを目的とし、地域みんなでこどもたちを育む仕組みの構築を目指し活動に取り組む。学習支援や町内独自のフードパントリー事業などを主体として活動し、2020 年 10 月より空き家再生に取り掛かる。		
活動概要	2019 年 4 月より、町内の公民館で月 5 回～6 回にわたり、地区社協及び区長と「居場所づくり」「まちづくり」などの地域課題に関して会議を重ねる。(参加人数 10 名程度) 2019 年 11 月町内で「まちづくり講座」開催 (場所 公民館) (参加人数 70 名) 「UME プロジェクト」を発足 2020 年 2 月 こども食堂プレイベントを開催 (場所 お寺) (参加人数 75 名) ***** 2020 年 5 月 「UME プロジェクト」→「浦崎地区社会福祉協議会 福祉部会」に組み込む 2020 年 6 月より 学習支援「うらしま塾」開催 (場所 公民館) 毎月第 4 土曜日 (参加人数 小学生 16 名 中学生 2 名 高校生 7 名 大学生 4 名 ボランティアスタッフ大人 10 名) 岡山高校とオンライン学習も同時に開催 2020 年 6 月より 福山市立大学 都市経営学部 根本ゼミと「居場所づくり」会議を毎月開催 (場所 大学研究室) (参加人数 6 名) 共同研究契約締結 2020 年 10 月より 地域住民ボランティアによる 空き家片付けスタート ボランティア 15 名 週 2 回 2021 年 1 月より 空き家再生開始 (地元の工務店協力) 毎日		



高校生とオンラインでクイズ



空き家リノベーション大学生と地元の棟梁の打合せ風景



美大生と建築構造技術者による作業風景



学習支援 12 月の様子

◆実施に伴う効果

地域住民参画により、地域の多様な人財を巻き込み、「学習支援」であったり、「空き家再生」に取り組むことにより地域の繋がりがより一層深まり、高齢者・ハンディを抱える方々（B型就労支援の方々）と楽しみながら、こどもたちの健全育成に向けた活動を実施できた。何より、高校生や大学生の若者の力がとても大きな力として、こどもたちの育みに影響を与えてもらっている。

活動を通じて、「インクルーシブな地域社会の構築」を地域みんなで共有でき、とてもよかった。

* インクルーシブな社会とは・・・あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う社会をいう。

◆苦労した点

コロナにより、本来、実施計画にあった「こども食堂」の開催が出来なかった。

一方、出来る事として、フードバンク福山・ハローズ沼南店より提供いただいた食材を、民生委員の協力により、地域のしんどい方々へのお届けにして、フードパントリー事業としての活動とした。

◆今後の課題・発展の方向性

2021 年 4 月開所予定で「居場所 UME house」を運営し、こどもと多世代の交流拠点プラットフォームを構築していく。

毎日、開催し、「誰でもいつでも立ち寄れる、居場所」としていく。

地元大学生のアートによる「こどもの育み」に取り組み、ワークショップ開催などを計画。

中学生に「居場所運営」にも関わってもらい。高校生・大学生の若者と一緒に「繋ぐ場」づくりに取り組んでもらう。

◆活動を終えての感想・意見等

地域の多様な人財や行政・他団体との連携が生まれ、「居場所づくり」に向けた活動を楽しみながら活動できた。特に現役大学生・高校生の協力を得られ、若者の感性に、活動に関わる大人もこどもも影響され、刺激を与えてもらえました。

活 動 名	No.28	団 体 名	備後絃音頭をつなぐ会
子どもたちの力でふるさと再発見 ～つたえよう、ひろめよう備後絃音頭～		活動拠点	広島県福山市、府中市
		代 表 者	河村 規行
		支援金額	16 万円
団体紹介	備後絃音頭をつなぐ会は2010年末に結成しました。最初は15名程度でスタートしましたが、現在は子どもたちを含め75名程で活動しています。 子どもたちが加わって三味線教室が始まったのは2013年です。備後絃音頭を通して、子どもたちがふるさとの宝である備後絃の歴史や文化を理解し、ふるさとを誇りに思い大切に思う心を育むことが大きな目標です。		
活動概要	新型コロナの感染拡大により、活動が制限される中、多くのイベントが中止となりました。 5月小・中学校運動会での演奏は秋への延期となりました。 ○秋に行われた中学校の運動会のみ、備後絃音頭が踊られ、演奏で参加しました。10/24・中学校にて ※小学校の運動会は縮小開催となった為、備後絃音頭自体がなくなり参加できませんでした。 チャリティー民謡イベント、備後絃の祖富田久三郎慰霊・顕彰の催し、備後ふくやま伝統産業展、公民館祭り発表会、保育園児とのふれあい交流会等中止となりました。 ○子ども三味線教室の稽古は、学校休業期間以外に万全の感染対策を講じ実施しました。 第3土曜日・小学校余裕教室 キラキラコミュニティルームにて		



中学校運動会・キラキラ子ども三味線教室のOG（中学生）



運動会・キラキラ子ども三味線教室の子どもたち



運動会で唄と三味線に合わせて踊る生徒と教職員



三味線教室取材記事

◆実施に伴う効果

子どもたちがふるさとの歴史・文化に自然に触れ体感することで、ふるさとに愛着をもって地域で育ってほしいと願う取り組みなので、コロナ禍でのイベント中止や活動の制限は大きなマイナスでした。子どもたちには自分たちががんばった達成感を体験させてやることができず残念でなりません。しかしそんな中でも子どもたちが稽古を休まず続けてくれたことはひとつの救いでした。備後絃音頭をつなぐ会本体も活動らしい活動はできませんでしたが、新しく10名程の仲間を増やすことができたこと、会のホームページを立ち上げたことで、子どもたちに過去の自分たちの活躍の様子を見せてやることができ、“よくがんばったね”と声をかけてやることもでき、認めてもらえたと感じる自己肯定感を与えられたのかと思います。

◆苦勞した点

上記の通り、対面でふれあう中で成果が生まれる活動なので、苦勞もできなかったというのが現実です。コロナ禍で感染を防ぐことに気を遣う部分は苦勞と言えるかもしれませんが。

マツダ財団様のご支援のおかげで、備品の補充という面に関して、子どもたちの活動を今後更に支えていく上でも進み、助成に対し深く感謝申し上げます。

◆今後の課題・発展の方向性

小学生は1年生から6年生まで満遍なく参加してくれるのが将来への継続という面では理想なのですが、思い通りには行きません。声かけを続け、この活動の魅力を伝えたいと思っています。中学3年生の子どもたちが高校になっても手伝いに来ると言ってくれたのには、驚いたと共に感激しました。これからもこの活動をつないでいこうと決意を新たにしました。

◆活動を終えての感想・意見等

まずはコロナ感染の終息です。人と人とのふれあいやつながりは、そんな環境でしか本当の意味では醸成されません。これが本音です。

しかし、今年はどうすれば歩みを止めずに子どもたちの力を育んでいくのかを模索する年でもありました。稽古の成果を披露する機会は僅かではありましたが、楽しみながら練習に励み技量を上げていく子どもたちの姿は、目標への歩みだったと思います。

活 動 名	No.29	団 体 名	iikoto メイト (いいことめいと)
iikoto メイト開設 10 周年事業		活動拠点	山口県宇部市
		代 表 者	藤本 健二
		支援金額	43 万円
団体紹介	2010 年 12 月 代表宅倉庫を改装して拠点を開設。当初の構成員 8 名。現在は 16 名+食堂スタッフ 6 名 長年大正琴の練習を共にしてきた仲間が高齢期の在り方への思い（自活できるからだ・ところ。頼りになるご近所・仲間。生き活きと前向き生活。少しはお役に立ちたい）を形にして活動してきた。 名前の iikoto メイトには「大正琴の・いい琴」「身体に いいこと」「脳に いいこと」「ご近所に いいこと」を活動の指針とする意が込められている。 2020 年は 10 周年にあたり、子ども食堂の開設、10 周年感謝祭を実施した。 10 年たててきた力量と地域や友人知人の応援者を得て実施することが出来た。 特にマツダ財団よりの助成金は揺るがない安心感、とポジティブな思いや言動につながり、コロナ禍においても活動を継続することが出来た。		
活動概要	いつでも誰でも集える場所として開設した拠点で月間平均 23 日活動した。2020 年度（4 月～1 月迄）の月間の利用者数は平均 265 人であった。がこれは前年比 72%であり、コロナ禍による活動自粛が影響している。 拠点活動内容はスクエアステップ・元気アップ体操・ぼちぼち体操・チェアピクスなどの運動と大正琴・絵手紙・刺繍手芸・ものづくり・パソコン・等。この他になんでも相談日・メンバー会議・月替わりイベントの水曜会などを月一回実施している。子育て応援として七夕まつり、夏休み工作、餅つき大会、お別れ会など。地域貢献としては大正琴のボランティア演奏、宇部市営バスの飾りつけ、モールの地域貢献事業などへ出店参加。20 年度は自粛したが。地域文化祭スクエアステップの講師派遣、宇部市福祉まつり、などにも例年だと参加する。 10 周年事業として 1) 子ども食堂（地域食堂）の開設 毎月 2 回開催。コロナ禍により持ち帰り食を提供。毎回平均 100 食。 2) 開設 10 周年記念感謝祭の開催 （約 130 名参加） 20'年 11 月 29 日 常盤地区ふれあいセンター全館借り受け 特別講演 講師 ほっぺこどもの森 理事長 江藤美知子氏 ライブ配信実施 子ども工作道場 隠家テント（古布を使ったオリジナル・自由発想） もったいない工房手芸品・野菜販売		

子ども食堂、試食会 2020 年 2 月



2020 年 8 月持ち帰り食



講演会場 演題「子育ては人生の基礎作り」



こども工作道場「隠家テント」



◆実施に伴う効果

子ども食堂の開設は時流に乗っていることもあり、地方新聞でも何度も取り上げてくれた。
また、資金調達の一つにクラウドファンディングを利用したことで話題となり、結果的に多くの応援をいただいた。
コロナ禍により、本来の目的とは外れて、持ち帰り食の提供になったが、働いている母親にはこの方がありがたがられている。専業主婦を発掘して厨房のスタッフに加わってもらい、生きがいきり、仲間づくりになった。
10周年感謝祭を拠点以外の常盤ふれあいセンターを借り切り、実施したことで地域の広範囲に認識してもらえた。
子育て中の母親を対象にした講演はおおむね好評であった。
iikotoメイトの新しい活動形態を体験できた。

◆苦労した点

コロナ禍により刻々と変化する状況に、対応していった。
子ども食堂は、開設へ強い意気込みでトライしたことで実現できた。
感謝祭は限られた日にちの中で、当初の計画を変更することになり、縮小されたものとなった。
しぼんでしまった計画でもポジティブに捉え、達成感を持てる結果を出すことに留意した。

◆今後の課題・発展の方向性

子ども食堂は本来の地域食堂の在り方が出来るまで現状のまま、コロナの影響に対応しながら継続していく。
今回青少年健全育成関係の応援をいただき、これからの活動の拡がり場所に気付くことが出来た。
コロナ後にはこのつながりを深めていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

コロナ禍の中、とするとネガティブな意見に押され計画倒れになりそうであったが、マツダ財団の助成をいただいていることが、ポジティブな気持ちを高めてくれて実現できた。
10年間の活動中には気付かなかった自力に気付くことが出来た。
行動の後押しをしてくれる資金を得ていることは大変ありがたいことです。
誠にありがとうございました。

終了時交流会

2020 年度は、年初より新型コロナウイルスの影響で思うような活動ができない 1 年でした。緊急事態宣言があり、活動開始が 6 月以降にずれ込んだ団体が多くありました。財団との関係においても、4 月の贈呈式が中止となり、活動視察もできず、8 月～9 月に 6 回に分けての小規模なオンライン交流会を行い、やっとお顔を拝見しました。結局、9 団体が今年度の活動を見送られ、今年度終了は 21 団体でした。

終了時交流会も第 3 波の影響を強く受けましたが、研究と実践の融合、広島と山口の市民活動団体の交流という目的を果たすべくオンラインで開催しました。今年度終了予定の研究者 3 名（全国）と広島県 17 団体、山口県 4 団体を始め総勢 80 名を超える多くの方々にそれぞれの拠点からオンラインでご参加いただきました。

昭和や平成以上に令和では青少年の健全育成には市民活動が重要になると説かれる明石先生の基調講演を皮切りに、コロナ禍でも負けずに実施された研究者、市民団体の報告を聞き、意見交換を行うことで、大変有意義な時間を過ごすことができました。

2020 年度「青少年健全育成関係 研究&市民活動 終了時交流会」式次第

日時：2021 年 2 月 11 日（木）14:00-16:30

場所：オンライン Microsoft Teams

実施内容：

- ・ 基調講演（選考委員 千葉敬愛短期大学学長 明石 要一 様）
「昭和、平成の日本型学校教育と令和の日本型学校教育の違いは何か」
- ・ 研究者報告（3 名）
- ・ 団体活動報告（5 団体）
- ・ パネルディスカッション
課題：「どう続ける！コロナ禍での市民活動」

タイムスケジュール：

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 13:40-13:55 | 入室 |
| 14:00 | 開会宣言（山内常務理事）
参加者紹介 |
| 14:15 | 理事長挨拶（小飼理事長） |
| 14:20 | 明石先生基調講演 |
| 14:30 | 研究者報告（3 名） 報告 8 分・質疑応答 2 分/人 |
| 15:00 | 団体活動報告（5 団体） 報告 5 分・質疑応答 2 分 |
| 15:40 | パネルディスカッション |
| 16:30 | 閉会宣言（山内常務理事） |

＊ 公募～報告書冊子発行までの流れ

